第14回さくらサミット in NEO

～さくらと歩む地域の未来～

報告書

主催：岐阜県根尾村

目　次

■さくらサミットシンボルマーク　3
■さくらサミット憲章　3
■開催概要　4
■スケジュール　5
■サミット事前会議　6
■オカリナ演奏　7
■主催者あいさつ　8
■来賓あいさつ　9
■記念講演　11
■サミット討議　19
■共同宣言　45
■次期開催地あいさつ　46
■体験会・視察　48
■記念植樹　49
■第１回淡墨桜絵画コンクール受賞者　50
■第６回さくらサミット大賞 押し花絵コンクール受賞者　51

■さくらサミットシンボルマーク

さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第２回さくらサミットで採択されました。地球をあらわす円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、末永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。

■さくらサミット憲章（平成元年 9 月 22 日制定）

Success　成功

第１条：　今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach　接近

第２条：　「21 世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword　言葉

第３条：　まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity　調和

第４条：　文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation　縁

第５条：　「桜」によって結ばれた縁を大切にし、お互い友好を深め、21 世紀に向かって前進していきます。

Agreement　合意

第６条：　共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

■開催概要

■名　称　　第 14 回さくらサミット in NEO

■テーマ　　さくらと歩む地域の未来

■目　的　　「桜」をまちのシンボルとし、桜によるまちづくりを推進しようとする自治体が一堂に会し共通の課題について討議し、参加自治体の連携促進を図る。

『さくらと歩む地域の未来』をテーマに、地域にとって桜の存在を再認識し、現状の問題点を語り合いながら、未来に向けて桜を活かしたまちづくりを討議する。

■日　時　　平成 14 年 5 月 18 日（土）・19 日（日）

■会　場　　根尾村文化センター、淡墨公園、うすずみ温泉ほか

■主　催　　根尾村

■後　援　　岐阜県、根尾村商工会、根尾村社会福祉協議会、岐阜新聞

■スケジュール

平成 14 年 5 月 18 日（土曜日）

11:30　■参加者受付
12:03　■サミット事前会議
　　【会場】樽見鉄道車輛内（大垣駅～樽見駅）
13:20　■オカリナ演奏
　　【出演】根尾中学校
　　【会場】根尾村文化センター
13:30　■サミット開会
13:45　■第 1 回淡墨桜絵画コンクール表彰式
14:00　■記念講演
　　【講　師】有馬頼底老師（金閣寺住職）
　　【テーマ】「日本人の心」
　　■第 6 回さくらサミット大賞 押し花絵コンクール表彰式
15:05　■休憩
15:20　■サミット討議
　　【テーマ】「さくらと歩む地域の未来」
　　【参加自治体】16 団体（P.19 参照）
　　【コーディネーター】篠田伸夫氏（全国町村議会議長会事務総長）
17:20　■共同宣言文採択
　　■次期開催地発表・あいさつ
17:35　■サミット閉会
18:30　■交流会
　　【会場】うすずみ温泉

平成 14 年 5 月 19 日（日曜日）

9:00　■記念植樹【会場】うすずみ温泉 芝生広場
9:45　■体験会　【会場】うすずみ温泉 体験工房
10:20　■見学会①【会場】根尾村地震断層観察館
　　■見学会②【会場】根尾村郷土資料館
11:50　■昼食　　【会場】淡墨公園
12:20　■村長あいさつ
12:40　■解散

うすずみ温泉「四季彩館」にて

■サミット事前会議

【会場】樽見鉄道車輛内（大垣駅～樽見駅）

大垣駅にて樽見鉄道に乗車

根尾川を眺めるみなさん

車中で行われた事前会議の模様

樽見駅に到着（奥の建物が根尾村役場）

樽見駅からサミット会場へ移動中

■オカリナ演奏

■出演した根尾中学生の感想

　さくらサミット会場で演奏ができたことによって、全国の多くの方にオカリナについて知ってもらうことができ、オカリナに取り組んでいる私たちにとっては、取り組みが一歩前進したという達成感がもてました。また、私の話を笑顔で聞いてくださる方ばかりで、桜のことを頭に思い浮かべながら気持ちよく話すことができました。

根尾中学校　３年　松葉 恵利

■主催者あいさつ

根尾村長　　所　和徳

皆様、こんにちは。ただいまご紹介をいただきました根尾の村長の所でございます。今日はたいへん心配しておりました雨もすっかり上がりまして、たいへんいい天気に恵まれて、第 14 回さくらサミット in NEO を開催させていただきました。たいへん今日はお忙しいなか、岐阜県知事様の代理の奥村副知事様、松野県議会議員様、戸部県議会議員様、それから東京からは日本さくらの会事務局長の本間様においでをいただきました。また、さくらサミットに加盟しております自治体、北は北海道の静内町から、南は宮崎県の北郷町までずっとおいでをいただきまして、本当に遠いところから、あちこちからおいでいただきましたことを心から感謝を申し上げます。そしてまた関係自治体の方々もおいでをいただきましたし、こうしてすばらしいサミットが開かれますことを心から感謝を申し上げます。

ご覧のように根尾村はたいへん山のなかでございます。しかし立派な桜があるということで、実は昨年の 2 月頃、本日のコーディネーターをお願いしております篠田さんから電話をいただきまして、一つ来年の会場を引き受けてもらえんやろうかというお話がございました。私もサミットは初めてでございますので、淡墨桜がある以上やらざるをえんということで、よろしいですよとご返事をいたしました。

実は昨年の 4 月に茨城県の日立市でサミットが行われました。そのときに正式に根尾村が来年の主催会場ということをご承認いただきまして、以来準備をしてまいりました。ちょうど昨年、私はワシントンの桜祭りに行っておりましたので、日立市のさくらサミットには欠席をいたしました。今日は私も初めてでございますが、皆さまと共に、一つ意義あるさくらサミットにしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はありがとうございます。

■来賓あいさつ

岐阜県知事　　梶原　拓

本日ここ岐阜県根尾村におきまして第 14 回さくらサミットが盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。参加者の皆様におかれましては、北は北海道静内町から、南は宮崎県北郷町まで遠路当地へお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。また本日は記念講演の講師として金閣寺住職の有馬頼底老師様、またサミット会議のコーディネーターとして元岐阜県副知事であります全国町村議会議長会事務総長の篠田伸夫様にたいへんお忙しいなか､お越し頂いております｡まことにありがとうございます。

今回のサミットでは「さくらと歩む地域の未来」をテーマに、地域にとって桜の存在を再認識し、未来に向けての桜を活かしたまちづくりについてご討議され、全国に情報発信されるたいへん意義の深いものでございます。

イベント･コンベンションをはじめとする交流産業は 21 世紀の基幹産業として益々その重要性が増しております。現在、本県では「日本まんなか楽園ぎふ－飛騨・美濃」構想を推進し、交流産業の中核となる拠点施設の整備や、観光客に楽しんでいただけるよう魅力ある街道、回廊づくりを行い、独自の観光商品づくりを進めております。

特に､本年は中山道に宿駅制度が制定されて 400 年目にあたり､温故知新をテーマに｢姫街道 400 年祭」と銘打ち、4 月から 11 月まで中山道沿線市町において各種イベントを開催しております。

また「近き者悦べば、遠き者来たらん」という考えのもと、住民主役、住民参加の花飾りを行い、県民総参加で花の都ぎふ運動を実施いたしております。花をキーワードに人と人、人と自然との共生の舞台づくり、また日本一住み良いふるさと岐阜県づくりを進めております。

ここ根尾村でも継体天皇お手植えと言い伝えられます樹齢 1500 年余の淡墨桜を中心に地域づくりが行われ、たいへん大きな成果を上げておられます。花の咲くところには人が集い、そこに交流が生まれます。平成 11 年にワシントン D.C.で淡墨桜を植樹したのをきっかけに交流が始まり、昨年 4 月にはワシントン桜祭りにおいて岐阜イベントを開催し、岐阜県と根尾村を広くアメリカで PR したところであります。先日アメリカから全米桜の女王が来県されるなど、さらなる交流を深めております。

本県で初めて開催されるこのサミットをきっかけに、淡墨桜をはじめ、宮村の臥龍桜、荘川村の荘川桜、下呂町の苗代桜など、県内の桜の名所をネットワーク化し、魅力ある観光資源とすることにより、根尾村はもとより、本県の交流産業の振興につながることを期待いたしております。

最後になりましたが、本件サミットの今後の一層の発展と、ここにお集まりの皆様方のますますのご活躍を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

（代読：岐阜県副知事　奥村和彦）

記念講演

「日本人の心」

●有馬頼底（ありま・らいてい）

昭和 8 年東京都生まれ。8 歳で得度。22 歳の時に京都相国寺僧堂に入堂、大津櫪堂老師に師事。大本山相国寺派の教学部長を経て、平成 7 年に臨済宗相国寺派管長に就任し、現在に至る。また、金閣寺、銀閣寺住職、相国寺承天閣美術館館長、京都仏教会理事長も兼ねる。

現在、社会福祉活動の推進や、京都の景観問題に取り組んでおり、また、年間数度の訪中を重ね中国禅宗遺跡の復興に努力している。

ご紹介いただきました有馬でございます。先ほど司会の方がおっしゃっていただきましたが、この根尾村から淡墨桜の株を頂戴いたしまして、ただいま金閣寺の境内ですくすくと育っておりまして、もう花をつけております。そんなようなご縁をいただいて、私もこの根尾村に数度参っております。そのつど感銘が深く、この美しい日本の自然、これをやはり永久に守っていかなくてはいけないのではないかという気を新たにいたしております。

金閣寺の歴史

先ほど金閣寺と言っていただいて、それはたしかにそうなんですが、実は鹿苑寺というのが本名です。金閣寺というのは通称でございます。たまたま境内にございます舎利殿、お釈迦様のお舎利、小さいお骨を頂戴いたしまして、それを祀らせていただいているのが舎利殿でございます。

舎利殿をお建てになったのが足利 3 代将軍義満公。義満公が舎利殿をお建てになるにあたりまして、向こうに鏡湖池という池がございます。この鏡湖池のほとりに舎利殿をお建てになるということで、池の上に張り出して建っておりますので、どうしても湿度が高い。木造建築はいちばん弱いのが湿度でございます。それをなるだけ長く持たすにはどうしたらいいか。そうすると、時の職人さん方が集まって、それは漆を塗るのがいちばんのことである。

漆というのは水分に実に強いです。私も実は、ご紹介がありましたように、今まで中国に 53 回行っております。向こうのプロレタリア文化大革命で破壊された仏教寺院の復興をずっとしているのですが、武漢へ参りました時、漢時代のお墓から漆の器が、漢時代というのは 2000 年前です、2000 年前のお墓から漆が出た。それが見事にほとんど風化していなくて、2000 年前のそのままの状態で出てきたわけです。これはお墓に水が溜まっていて水の中にあった関係で残った。見事に 2000 年の姿をそのまま私どもも拝見させていただいた。水に強い。

それで、池のほとりに建て出していた。それじゃあ、ひとつ漆を塗りましょう。ところがここで非常に大きな問題が起こって、たしかに漆は水に強い。何でも水に強ければいいというものではなくて、またいちばん弱いのが何か。これは太陽熱、紫外線。漆に紫外線が当たったら、たちどころに劣化していくんです。水に強いが光に弱い。どうしたものだろう。

そこで義満公が考え出されたのが、紫外線を漆まで入れない。紫外線をシャットアウトしよう。反射してしまおう。そして初めてあそこに金箔を押されたのです。あの金箔の裏には全部漆がある。漆がのりみたいになっているのです。漆を張って、その上に金箔を張ることによってあの建物を長く持たそうという。創建当時のものがずっと 500 数十年残っておりましたが、昭和 25 年、放火によって全焼をいたしました。たいへん残念なことでございます。

しかしながら、これもやはり再建をしなくてはいけない。再建をいたしまして昭和 30 年 10 月に再建が成りました。その時に私はまだ修行中でございまして、落慶の法要の手伝いにやらされました。1 階、2 階、3 階とございますが、1 階を掃除し、2 階を掃除し、3 階を掃除する。その床、見事な漆黒の漆。そこに 60 回の工程を経て最後に呂色仕上げというのをいたします。漆関係の方はご存じだと思います。見事に鏡のようにピカッと光って

いる。そこをずっとお掃除をさせていただきまして、10 月に落慶を迎えたのです。

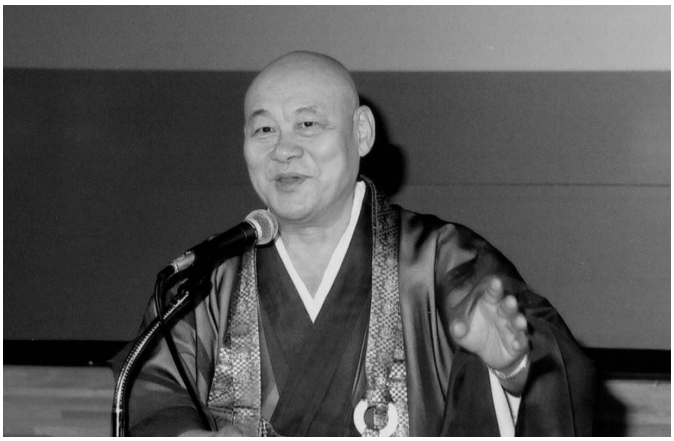
そこに金箔を張ったために、とりあえず金閣寺と呼ぶようになって、それが俗称でございます。鹿苑寺というので、鹿苑寺ってどこだ、なんて。金閣寺といったら、ああ、そうか。おかげさまで数年前に世界歴史遺産に登録をされました。日本で 2 回目。1 回目は法隆寺さんということで、2 回目は京都のエリアの歴史遺産の指定を受けました。

最近、漆が非常に劣化しております。原因を調べましたところ、昭和 30 年当時というのは、日本の漆はほとんど全国全部買い占めてもそれだけの漆が調達できなかったのです。それでインドネシア産と台湾産を混ぜて使った。ところが、やはりそれが日本の土壌に合わなかったんでしょうね。30 年ほどたちますと、ほとんど劣化してしまって、箔もだんだんだんだんはげてきたわけです。急きょ、10 年ほど前に大修復をいたしました。今度はすべて純国産をドラム缶 60 本集めました。全国の漆業者さんから文句を言われまして、金閣寺さんが漆を買い占めるものだから、漆が高くなってどうもならんと言って怒られた。そんなわけで大修理を敢行いたしました。

金箔というのは、ご承知でしょうが、金の塊を打つのです。打って打ってだんだんだんだん伸ばしていくんです。それで薄く伸ばしていったのが箔です。ところが、あまりたたいて伸ばすとピンホール、細かい穴が開くんです。これだと紫外線が通ってしまいますから非常に難しい。思い切って 5 倍の金箔、5 倍箔を開発いたしました。義満公の時にはそれをやった。室町初期にできたのに今ごろできないというのは何だということになって、いろいろな業者をあたりましたが、そんな 5 倍箔なんて打ったことがないというんです。それを何とかひとつやりたいといったら、やはり日本人の職人というのはすごいヤツがおります。一人見つかった。よし、おれがやりましょう。その一人の人に 20 万枚金箔を打たせた。それで現在のあの舎利殿が完成をしております。

毎年、何千枚か張り変えております。また今度もこけら葺きの屋根替えをいたします。これは約半年かかります。それで箔を押す。あれもたいへんなんです。職人さんがいちいち漆を張って漆を磨いて、また漆を塗って箔をパッと押す。あのすごい技術。やはりそういう技術を、ずっと日本の職人の手に残していただきたい。そういう点でも少しぐらいはご協力ができるかななんて。そんなようなことで今にさん然と輝く金閣舎利殿が存在しているわけです。

ご承知のように、鹿苑寺はその前にあそこは西園寺公経公の別荘でございました。北山第という。西園寺公経公というのは、例の保元・平治の乱の時に源氏の頼朝のいとこだった。あの有名な後鳥羽上皇が鎌倉幕府を攻めようという。鎌倉幕府から政権を奪取、取り戻して院政を敷こうというわけです。それで兵をあげる。お公家さんは戦のプロではないです。悠々と鎌倉を攻めるべしと院政を下しておいて、記録によりますと宴会をなさる。これから戦争をしようというのに宴会なんて、実に優雅な話です。その時に西園寺公経公、鎌倉幕府の親戚です



から、いち早く早馬に乗って鎌倉に知らせる。その知らせを受けた北条泰時が、いち早く関東軍を率いて京都へ迫る。お公家さんはのんびり構えて宴会か何かやっている。その隙に泰時を総大将にした追手が入る。しょうがない。ついに大失敗をしちゃう。

そのいちばんの功労者はだれかというと、西園寺公経だというわけです。それで鎌倉幕府から、おい、西園寺君、お前は京都の代表で鎌倉幕府を代表する京都の総取締を命ずる。それで京都の実権を西園寺公経公が握る。さまざまな形で巨万の富を投じて、のちに鹿苑寺となる北山第を建設する。たいへんな大工事だったそうであります。ところが、だんだんだんだんおごる者は久しからずというんですか。勢力がずっと落ちて、南北朝時代にはほとんど壊滅状態。

そこに着目されたのが、さっき申しました 3 代将軍足利義満公。義満公は、36 歳の時に長男の 4 代将軍義持公に政権をお渡しになって隠居をされる。当然、隠居所がいるんだという。そこで西園寺邸が荒れ果てていたのに着目されて、そこを譲り受けられて再度、100 萬貫というすごい費用を投じて再建をされたのです。そしてできあがったのが北山第、北山山荘。義満公は、将軍は譲ったが、まだ実権は持っていらっしゃる。そこで北山第が事実上、日本の政府の役割を果たしたのです。

有名な話で、応永 8 年、対中国貿易を再開されました。中国の勅使をお迎えになった。この北山第で迎えられる。その時に義満公が勅使をお迎えになる時に、ひざまずいて迎えられた。これはあとでちょっと問題になる。管領の斯波義将という方が、天下の将軍ともあろう者が、外国のお遣いにひざまずいて迎えるとはいささか問題ですよ。卑屈すぎますよ。もっと泰然としておられるべきです。そうしたら義満公はどう言うか。違う。それは間違っている。明の永楽皇帝の勅書を携えて来たのは国賓だ。この国賓を迎えるにあたって、日本の代表である私が最高の儀礼を尽くして迎えるのが当然のマナーだ。お前たちは国際感覚がなさ過ぎるという。義満公は豊山の僧について古典を非常に勉強しているわけです。そういうことをきちっと全部踏まえていらっしゃる。当然、私が国賓を迎えるのにひざまずいて迎えるのの何が悪いんだ。そう言われた。なるほど、ごもっともですという話。

そして、あの鹿苑寺はしばらく日本の中心になった。有名な応永 15 年 3 月 8 日に、三舟三席の会というものがあの場所で催される。その時に後小松天皇が行幸あらせられました。20 日間鹿苑寺に滞在なさった。これは今でも天皇が宮中、皇居を離れて同じ京都で 20 日間も滞在なさったという今までの天皇の記録だそうです。まだ破られていないんですって。東京へ行きまして東京も然り。昭和天皇は葉山の御用邸に 1 ヵ月。あれは東京を離れていらっしゃる。それはある。しかし、同じ東京で 20 日以上とどまったことはないです。それほどの権勢を誇られた義満公。一世一代のすごいイベントをなさった。

その時に舞を舞われたのが有名な能楽師、道阿弥。後小松天皇がその能を天覧あそばした。これは日本の歴史上、非常に大きな出来事だった。能というのは、今でこそ日本を代表する芸能でしょう。外国でも日本の芸能のなかんずくトップは何かというと、それは能楽という話になります。ところがその当時、猿楽あるいは田楽とか、これは一奈良地方のローカルな踊りだったのです。それを義満公が大きくバックアップされて、有名な観阿弥、世阿弥親子が一つの芸術の領域まで高めていったのです。田楽、猿楽、単なるローカルな舞をメジャーにした。そういうことによって一挙に能楽が大発展を遂げる。

とくに 2 代目の世阿弥元清、この方がなかなか優れた方で、能楽の生粋の哲理を解いたと言われる有名な能楽師で、さまざまな作曲もし、自分自身も舞い、また声が良かったら

しいです。あのすばらしい能楽の音声がこの世阿弥によって完成された。『風姿花伝』というすばらしい能の哲理を解いた。これはいまだに能楽のバイブルと言われています。

その中で有名な言葉、秘すれば花。ちゃんと花が出るんです。さくらサミット。今日も花です。秘すれば花。難しい言葉ですが、突き詰めていくとそう難しくない。十分に簡単な言葉。人間、私が、おれがと表に出ると、ぜんぜん違う。そうじゃない。秘すれば花。密かに心の中でじっと熟成されたそのものが花となって開くんだという、世阿弥の能楽の論理。世界でいちばん古い、世界最古の舞台劇が能でございます。いまだに日本を代表するものでありますが、これを奨励された歴史的な第 1 ページというのが、応永 15 年の三舟三席の会。義満公が主催者。世阿弥元清が総合プロデュースをなさったわけです。そういう実に歴史的な場所である。

やがてこの義満公も病には勝てず、その三舟三席の会が 3 月に終わって、やれやれと思う 5 月に急に発病されます。ついに 5 月 6 日に亡くなる。人生ははかないというのか、あれほど権勢を振るわれた義満公も、ついに病には勝てないで亡くなっていく。

そのご戒名を鹿苑院殿とおっしゃいます。鹿苑というのは鹿野苑の省略。これは有名なインドにございます鹿野苑。ここはどういうところかというと、お釈迦様がブダガヤというところで七日間座禅にお入りになる。12 月 8 日の明けの明星をご覧になって、この仏教の大哲理をお悟りになるのです。そして山からお出ましになる。一歩一歩里へ出てこられる。ちょうどその鹿野苑という、鹿が群生しているところだそうで、私も行ってまいりましたが、鹿は 1 匹もいませんでしたが昔はいた。その鹿の苑、鹿野苑、これが初めてお釈迦様が説法をなさったところ。初転法輪の地と言っております。これが鹿野苑。その鹿野苑を縮めた鹿苑をもって義満公の法名となさったわけです。のちにその法名を取って鹿苑寺として再出発をいたします。先ほど申しましたが、その中に金箔を張った舎利殿があるために、誰いうとなく金閣、金閣。そのうちに寺が付いて金閣寺になる。金閣寺というのは実はどこにもないんです。鹿苑寺。

金閣寺と淡墨桜

こういう名刹でありますから、あるいは将軍、あるいは天皇もしばしばご参詣なさっている。鹿苑寺独住第二世は鳳林承章禅師という、この方はかなり偉い方で、この鳳林承章禅師は後水尾天皇のいとこさんにあたられる方。後水尾天皇のお母さんのご兄弟の子供さん。勧修寺晴豊卿のご子息さん。この方が鹿苑寺のご住職をなさった。後水尾天皇もしばしばお忍びで行幸なさる。あるいは野点を楽しまれたり、あるいは連歌の会を催されたり、しばしばお見えになる。天皇がお越しになってお通りになる部屋を玉座の間といっておりまして、今でも鹿苑寺の大書院にございます。格天井の立派な部屋です。書院造りの非常に瀟洒な建物。この後水尾上皇が行幸なさいますお部屋、玉座の間を含めた一棟が大書院としてございました。

その大書院に実は、江戸時代の中期に一人の天才画家がおられて、その天才画家は伊藤若冲という方です。昨年京都の国立博物館で若冲特別展をいたしました。皆さんお越しになる。たいへんな入場者。今までの記録だそうです。今までの記録は何かというと、朝日新聞がミロのビーナスを持ってきて、国立博物館、ミロのビーナス、その時の入場者が記録だったそうです。ついに昨年、伊藤若冲によってミロのビーナスの記録をやっと破った。

そんなような若冲というのはどういう方かというと、非常にナチュラル、自然体の方で、

おうちは八百屋さんなんです。しかし、家業の八百屋さんは全然がんばらない。野菜物が余るでしょう。庭先にニワトリを飼って、ニワトリに野菜の余りをみんな食べさせて、朝から晩までニワトリをじっと見ているという、変わっているといえば変わっている。しかし、たいへんな天才だったわけです。

その方がこの鹿苑寺の玉座の間、襖絵 50 面を全部江戸中期におかきになった。そして、初めて若冲が世に出た歴史的な作品が 50 点あります。今、それはすべて重要文化財に指定されておりまして、私どもの承天閣美術館に全部収蔵しております。しかし、それが玉座の間に全部はまっていたわけです。ところがさまざまな事情で、火災もあるかしらないけれど、やはり鹿苑寺というのは湿度が強いんです。そこで重要文化財に指定されたのを機会に、本山の美術館のほうへ全部収蔵しましょうという話で収蔵いたしました。

ところが、あと何も書いていない白いふすまがずっとはまっていた。やはりここに若冲に代わるべきすごい名画を残す。これが責任を負っている我々の一つの使命ではないか。何か平成の、その当時は昭和でしたが、すごい名画を残そうじゃないか。それで、ずっと当時の画家の方々を網羅いたしまして、たまたまその当時日展の理事長をあそばしておられた加藤東一先生という方に遭遇いたしました。

加藤先生にお願いをいたしました。どうかひとつ伊藤若冲の代わりにぜひともお願いをいたしたい。加藤先生はしばらく考えておられた。僕みたいなそんなもの、若冲のあとにかく。そんなものできやせんよ。いや、できやせんよって、そんなこと私、知りません。とにかくかいてください。何でもいいから好きなものをかいてください。お願いします。うん、そうか。じゃあ、考えてみよう。日本人のおもしろいところで、考えてみようというのはお断りのことらしいです。ちょっと考えておくわ。これはお断りなんです。ところが先生は本当に受けていただきました。

お任せしたかぎりは何をおかきになっても文句を言いません。好きなものをかいてください。3 年間余裕をさしあげました。3 年間どうぞお時間をさしあげます。3 年の間にかいてください。鎌倉にお住まいであった加藤先生、しょっちゅうお邪魔して、どうです、先生。うん。まだ何もかいておらん。そうですか。お願いしますよ、とまた帰ってくる。しばらくするとまた行く。先生、どうですか。まだだ。そうこうするうちに、先生はアトリエを増築し始めました。狭いからもっと広く。アトリエを広くするということは、大画面の大襖絵をいよいよかく気になられたんだなと思って、ついに、おお、先生、ぼつぼつかき出されるぜ、という話。

はたして 2 年間あちらこちらのデッサン、写生をずっとして歩かれました。さまざまな風物を写生されている。これまた加藤先生の郷里でありますところの岐阜へ、しばしば足をお運びになっておられる。宮城県の瑞巌寺へ行ったり、またいろいろなところにいらっしゃいます。その取材にびったり付いてずっと歩いていたのは、皆さんよくご存じの壇ふみという女優さんがいるでしょう。あの壇ふみさんがべったり付いて先生といっしょに歩いたんです。読売テレビが最後にドキュメンタリーの番組を組みまして、それに全部収録されています。ずっとしょっちゅう郷里の岐阜県においでになられた。それで何やかんやデッサンをしておられて、かいて歩く。

そして、ある日、私が加藤邸を訪れました。アトリエへ行ってびっくりした。圧倒された。何や、これは。ずっと大画面、3 間の床の間があります。両サイドが出ています。それからふすまが続いています。そこに巨大なコブ、グアーッとしたコブがかいてある。これは先生、何です。これなあ、根尾村というところがあって、そこに千何百年たっている

淡墨桜というのがあって、それをかいているんや。いや、そうですかという話です。それから約 1 年をかけて、この根尾村の淡墨桜を見事におかきになりました。できあがって運ばれてきた。大書院の通りにずっと。まあ、すごかったですね。びっくりしました。感動という、そんなちゃちな言葉では表現できません。

この淡墨桜が、この鹿苑寺に永遠に残る。加藤先生はそうおっしゃった。私がかかせていただくということは、たいへん私にとって名誉なんだ。いろいろ頼まれる。しかし、そんなもの 10 年、20 年、100 年、200 年たったらどこに消えてしまうかわからない。しかしながら、この鹿苑寺の玉座の間、しかも大書院の全 50 面にあの天才といわれる若冲のあとに私がかかせていただく。こんな名誉なことはない。ここで襖絵を納めることによって永久に僕の作品が残っている。私としては本当に名誉なことだ。つくづくおっしゃった。樹齢千数百年、見事だ。枝がずっと伸びた全面の襖絵の端まできます。

また、皆さんも何か機会がありましたら、特別拝観を受け付けておりますので、住職の有馬から聞いてきたと言ってください。どうぞという話でご覧になっていただけます。それはすばらしいところ。

加藤先生は、その時にいろいろおかきになりました。巨大な岩石をまずおかきになった。そして、そこから樹齢千数百年の淡墨桜、それから仙台の名刹、有名な伊達政宗の菩提寺でありますが、あそこの臥龍梅という、ずっと梅の古木がぐっとうねって庭先に出ている。臥龍の龍がうずくまる。臥龍梅というのがございます。それをおかきになった。そして、最後にタケノコをお書きになった。竹藪、タケノコがシューッと出ている。

先生、タケノコは今、出てきてゼロ歳ですな。うん、そうや。ゼロ歳。それから始まって、まず岩石は何億年、地球がどうかなってドロドロになって、だんだん固まってきて地球は丸くなった。その時のすごくすごくすごい時間の岩石。ゼロ歳からかかれて、そしてあの松島瑞巌寺の臥龍梅から始まって、そして次に根尾村の淡墨桜に至り、やがて古代の岩石に到達する永遠の営み。人間の永遠の営み。これを表現されたのですねと言った。そうしたら加藤先生、いや、それはわしが言うことや。あんたに言われたら世話ないな。おおきに、ありがとうとおっしゃいました。芸術ってそういうものだと思います。これを襖絵としてお残しになる加藤東一先生、あの芸術、これは何にも代えがたいすばらしいことなのです。消えていくものが消えていかないのです。残らないものが残るのです。これがそうです。

日本人の心

皆さんも、おそらく桜の園からおいでになったはずです。桜というのは、本当に私どもの日本人の心から離れないすごいものです。この桜のエネルギーで私たち日本人は生かさせてもらっていると思う。ですから、どうか皆さんも桜を大事にし、桜を慈しみ、永久にこのすばらしい桜を残そうじゃありませんか。

有名な桜をテーマにしたいろいろな物語がありますが、私がいつも心をひかれるのは薩摩守忠度、平家の武将。ついにあの壇ノ浦でもくずと消えていった薩摩守忠度。平家きってのインテリだった。いよいよ源氏に攻められて都落ちをする。その時に、薩摩守忠度が藤原俊成を尋ねられました。藤原俊成は有名な藤原定家のお父さん。藤原俊成はその当時、後白河法皇によって勅撰集の選者に選ばれた。勅撰集というのは、天皇がご下命によって日本の優れた歌を集めなさい。これが勅撰集。実は、俊成は 6 回勅撰集の選者になってい

ます。後白河法皇によって 7 回目の選者に選ばれた。これはのちに『古今集』ということになりますが、その時に歌をずっと選んでおられた。

その俊成のところに一人の平家の武将が訪れる。これがかくいう薩摩守忠度。俊成師匠、歌の師ですから、この私の歌集をお預けする。私がつくったような話をしますが、これは平家物語に出ている本当の話です。どうか、これをお預けします。何分よろしくお願いします。俊成、承知しました。お預かりします。薩摩守はついに落ちて須磨、明石、ついに壇ノ浦において最期を遂げられる。その最期を見届けた俊成が忠度の残した歌を見て、みな秀句ばかりです。5 句か 6 句あったはずです。その中の 1 首をこの勅撰集に入れようと決断された。

そして、あの有名な名歌、「さざなみや志賀の都はあれにしを昔ながらの山桜かな」。この 1 首を薩摩守とは載せられません。ですから詠人知らずで勅撰集に入ります。そして、その 1 首によって長く薩摩守の名前が残っていくことになるのであります。

これもやはり花ですね。桜花ですね。忠度はおそらく敗戦を予期し、同時に自分も都を離れたらこれで終わりだろうと思っておられました。そして、その桜をテーマに 1 首残された。選者である俊成卿もその忠度の心を十二分にくみ取られて、詠人知らずということで勅撰集に載せられた。

このものを知る、お互いに理解をし合う、心が通じ合う、これが日本人の桜に託す心だと思います。「さざなみや志賀の都はあれにしを昔ながらの山桜かな」。散っては咲き、咲いては散り、この淡墨桜、何度枯れかけたかわからない。そのつど皆さんの英知によって蘇って、蘇って、また今さん然と百花繚乱の花をつけています。この桜を愛する心、これが私ども日本人の一つの大きな力となり、大きな生きる指針となり、生きる光明となるはずです。

お時間がまいったようでございます。私の話はこのへんで終わりたいと思います。どうもご静聴ありがとうございました。

サミット討議

「さくらと歩む地域の未来」

≪パネリスト≫

●篠田伸夫（しのだ・のぶお）

全国町村議会議長会事務総長。昭和 18 年鳥取県生まれ。昭和 42 年京都大学法学部卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、昭和 62 年より岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。平成元年自治省振興課長、平成 2 年東京都総合計画部長、行政部長、平成 5 年岐阜県副知事を経て、平成 9 年 1 月より消防庁次長を務める。平成 10 年 7 月より（財）救急振興財団副理事長、平成 12 年 4 月より現職。

≪サミット参加自治体≫

北海道静内町	秋田県角館町	福島県富岡町	茨城県日立市
群馬県宮城村	埼玉県幸手市	東京都北区	新潟県上越市
長野県高遠町	愛知県三好町	奈良県吉野町	島根県木次町
長崎県大村市	熊本県水上村	宮崎県北郷町	岐阜県根尾村

【篠田】 それではバトンを受けましたので、私のほうから進行を進めていきたいと思います。皆さんのお手元にこの「第 14 回さくらサミット in NEO」という冊子がございまして、このどこかに私の似顔絵が。10 ページですが、これは実は私が描いた漫画であります。加藤東一先生ほどうまくはないのですが、写真よりはどうもこれのほうがいい男に描けるものですから、描かせてもらいました。

さて先ほどオカリナの演奏を聴かせてもらいまして、たいへん感動いたしました。今 NHK で、毎朝、飛騨の古川を舞台に『さくら』というドラマが放送されております。今朝ほども、実は BS で 7 時半からかみさんと一緒に見ていたのですが、たいへん感動して私のふたつのつぶらな瞳から涙が出まして…。たいへんな感動を持ったままこちらの方に来たわけですが、オカリナの演奏を聴きまして、再び非常に感動いたしました。

そしてまた、あの中学生の皆さんがボランティアとしてガイドまでやっているという、すばらしい教育あるいはまちづくりを根尾村はやっていらっしゃる。ちょうど『さくら』という NHK のドラマも中学生が相手の先生の話でございますので、何か共通した清々しいものを感じたわけでございます。

さて、さくらサミットも回を数えまして 14 回目になりました。第 1 回は島根県木次町で、今日もいらしていますが、スタートいたしました。ときは、昭和 63 年です。西暦でいうと 1988 年ということになります。今日は会場に岐阜県根尾村の方々がたくさんお越しでございますが、1988 年というと、岐阜に関係する皆さんとしては、ああ、あの「ぎふ中部未来博覧会」があった年だなと思われるのではないかと思います。

この昭和 63 年当時は、地域間交流という言葉がキーワードでありました。第 4 次全国総合開発計画というものが策定されて、地域間交流というものを進めていこうということで、いろいろなことが展開されたわけであります。木次町さんもこのキーワードに触発されまして、さくらサミットというのものをやりたいということでスタートされたわけであります。今年は、回を数えて第 14 回目というわけでございまして、たいへんなものだな、よく途中で沈没しないでここまで来たなという感じを抱くわけであります。

先ほどからご紹介をいただいておりましたが、北は北海道の静内町から、南は九州宮崎の北郷町まで、サミットは、13 回開催されたわけであります。実は開催された土地を見てみますと、長野県から以西を西としますと、何とちょうど今回が東西半々ということになりまして、何となく節目の年なのかなという感じを抱いております。

それと今回もう一つ節目というか、今までとちょっと違うなという点があるのです。これは、今までの開催地の桜というのは全部群生した桜だったのですが、ここの根尾村の場合はたった 1 本の桜、淡墨桜というたった 1 本の桜をもってまちづくりをやっていらっしゃるということで、その辺も今までと違うところだなと。面としての、あるいは線としての桜に対して、点としての桜だという違いがある。この辺も面白いところかなと思っているわけであります。

このさくらサミットの趣旨につきましては、先ほど司会の方からお話がありましたので申し上げませんが、桜が自慢の市町村のトップの方がお互いに集まりまして、とにかく学び合おう

ではないかという会でございます。やはり自分の一つの自治体に閉じこもっていたのではなかなか発想もひらめいてこない。発展的な発想も出てこないということです。お互いに知恵を学び合う。これが非常に重要な時代ではないかと思うのです。そういう意味でこのサミットも 14 回目を迎えて、お互いにさらに知恵を学んでいただけるというように思っております。

昨年は、茨城県日立市で開催いたしました。テーマは、4 つございました。「桜と語る」「さくらの未来」「元気さくら」「ネットワーク」。この 4 つのテーマで討議いただいたのです。特にこのネットワークにつきまして、時は IT 時代である。この IT を駆使したネットワーク。この桜に関するネットワークというものをつくっていこうではないかというご提言をいただいていたわけです。今回はテーマが 2 つです。先ほどの樽見鉄道の中でこのテーマを皆さん方にご承認していただいたわけですが、2 つのテーマに沿って、これから討議をやっていきたいと思っております。

進行の仕方ですが、最初に地元の根尾村の村長さんから問題提起をしていただきます。いろいろとお悩みを抱えていらっしゃいますが、その問題を提起していただきます。それを受けまして、2 つのテーマごとにそれぞれ 2 つの団体から、自分のところではこうやっているという事例発表をしていただきます。そのあと参加者の皆さんとフリーディスカッションをしたいと思っております。そしてまた、できれば会場の皆さん方からもご質問なり、ご意見もいただければと思っているわけです。

それでは最初に問題提起ということで、地元根尾村の村長さんから根尾村の現状とその課題につきまして、よろしくお願いしたいと思います。

根尾村の現状と課題

【根尾村　所村長】　今朝ほども樽見鉄道で大垣から根尾村、樽見まで列車のなかでいろいろ会議をしてまいりまして、ある程度のお話もしてまいりましたのでお分かりになったところもあるかと思います。根尾村は来る道中、あるいは来ていただいてからご覧いただきましたように、山、また山に囲まれた、美しい山並みに囲まれた中山間地域ということでございます。そこからわき出るきれいな水、そして山々がつくり出す澄んだ空気。それらとともに四季折々の景観を形成している自然豊かな村でございます。

この自然豊かな根尾村では今、「桜（はな）拓く 21 世紀・ふれあいとやさしさの郷 NEO」を村づくりのテーマにいたしまして、恵まれた自然環境、そして豊かな文化資源。根尾村にはかなりいろいろな文化資源がございます。先ほど押し花絵コンクールの副賞としてお渡ししました菊花石もそうですし、能、狂言、いろいろそういった文化資源がございます。それと見ていただく資源もかなりたくさんあります。まだまだ掘り起こせば次から次と出てくるというようなことでありますが、これらを活用しまして若者が定住できるような地域をつくり出したい。そして活力ある文化の高い村を推進していきたいということで今努力をしているところです。

根尾谷の淡墨桜はご覧になっていただきますとかなり古いこぶこぶとしたものですが、今から 1500 年ほど前に、後の継体天皇になられました男大迹王という方が難を逃れて根尾村に住ん

でいらっしゃいました。やがて都から天皇になってほしいというようなことで迎えがまいりまして、そこで根尾を去るにあたって名残を惜しんで、そこに記念に手植えになった桜だと伝えられております。淡墨桜はそのまま長きに渡って地元の人たちによって守られてきた由緒ある桜であるということで、代表的な巨樹として大正 11 年に当時の内務省から天然記念物に指定をされたわけでございます。

村ではこの老木の保護につきまして、いろいろと努力してまいりましたが、昭和 23 年頃、ついに枯死寸前の状態に追い込まれたということで、当時の村長さん方はじめ、皆さんたいへん心配して、どうしたらいいかなということで考えておりました。その後、老木の起死回生の名手として知られておりました岐阜市の前田利行翁にお願いしまして、翌昭和 24 年に山桜の根っこを掘りました。そして、これを 238 本根継ぎをするという大手術を行ったわけです。その結果、それがうまく成功しました。失敗したら腹を切らならんという覚悟でやられたというように聞いておりますが、幸い見事な花をつけるようになりまして、開花のときには全国から数多くの観光客がこの地を訪れるようになりました。

一方では時期的にたいへん集中してまいりますので、交通渋滞が起きるというようなことがございます。最近ではインターネットや電話とかというものでいろいろ情報を得てまいりますが、役場のほうでもほとんど 1 日中職員が張りつくほど電話がかかってまいりまして、仕事がほとんど手につかないという状態です。そういうことですので、ちょうど満開をねらってやってくる方が大勢いる。観光バスで申し込みになった方は、今年あたりは葉桜になって見えた方もございますが、そんなような状態にあった。

ちょっと今年は桜が早く咲きまして、3 月 29 日に開花宣言がされましてから 4 月 1 日にはもうすでに満開というようなことで、あっという間に 1 週間ほどで散ってしまうというような状況で、本当にわずかな期間に来客が 15 万人ほど。普通の年ですと 20 万人ほどで、今年はやや少ないというように思っておりますが、15 万人ほどが押し寄せて来るというようなことでございました。

観光バスも 1000 台を超えるというような状況でしたが、いざ今度は桜が散りますと客は一挙に足が止まってしまうということで、これまた今度は寂しいというか、お店のほうも期待はずれというような状況になってまいります。こういうことでいろいろな問題を抱えているということでございます。

岐阜県でもこの三大桜と言われております桜がありまして、当村の淡墨桜、それから飛騨の方の宮村の臥龍桜というのがございます。それから荘川村の荘川桜。これはダムに沈むということで、引き上げて 400 年ほどの古い桜ですが、植え直したというような有名な桜もございます。また下呂のほうでは最近、苗代桜ですか。こういった桜がありまして、あちこちにさまざまな桜の名所があるわけですが、やはり当村と同様に桜を核とした観光の通年化ということ、あるいは開花時期における観光流通対策というような課題を抱えているわけです。

そこで今回のサミットでは、「さくらと歩む地域の未来」ということをテーマといたしまして、本日お集まりいただきました皆様方の共通の課題でもあります「さくらを中心としたまちづくり」、そして、「さくらをめぐる観光と交通」ということについて多いに議論をしていただきながら、地域の発展に貢献できるようなご意見の交換を深めていただきたい。そしてネットワークの輪を広げていきたいと考えております。

今日は、金閣寺の有馬頼底老師のお話を聞きまして、根尾村の桜もまた私どもの知らなかったようなお話も聞きまして、本当にありがたかったなと思っております。そういうことで課題をこれから皆さん方とともに語っていただきまして、少しでも問題解決になればと思っており

ます。本当に今日はご参加いただきまして、ありがとうございました。よろしくお願いします。

さくらを中心としたまちづくり

【篠田】　ただいま地元の根尾村の村長さんから率直な悩みが訴えられたわけであります。それではこの悩みをいかにして解決したらいいかということなのですが、まず一番目のテーマといいますか、問題点は、「さくらを中心としたまちづくり」ということです。より砕いて言いますと、桜を核とした観光の通年化、しかし、桜だけではどうも難しいのではないか。他の観光資源とどうネットワークを組んだらいいんだろうか。そういう点についていろいろと意見の交換をしてみたいと思うのです。やはりこういう点については先輩の事例発表というのがたいへん参考になるのではないかと思います。

まず吉野町さんからお願いしたいのです。吉野町さんは第 6 回のさくらサミットを開催いただいておりまして、後ほど詳しくご説明がありますが、何といっても桜と言えば吉野というくらいに桜の聖地でございます。それから桜だけではなくて、もっといろいろな財産をお持ちでございます。そういうものとの組み合わせをいろいろと考えていらっしゃるようであります。そこら辺につきましていい教えがあればご指導をいただきたいと思います。吉野町さん、よろしくお願いいたします。

【吉野町　松阪収入役】　ただいま紹介がありましたが、吉野町からまいりました松阪でございます。

吉野は、古事記・日本書紀の神武天皇御東征の件にも登場する古く長い歴史を有する町です。古くは大海人皇子が当地で兵を起こし壬申の乱が始まり、源義経は弁慶や静御前を伴って当地に潜み、後醍醐天皇は足利幕府に抗する南朝の拠点をこの地におくなど、悲しい戦の地であります。また、野に伏し山に伏して己を高め衆生を済度せんとする日本独自の宗教「修験道」の聖地でもあります。一方、西行法師をはじめ、松尾芭蕉、各務支考、本居宣長、島崎藤村等々、数多くの文人墨客が訪れた文学の里という一面も持っています。

そして、何といっても吉野は、桜の吉野として全国に知られ、4 月ともなるとシロヤマザクラを中心に 3 万本といわれる桜が、全山を覆い尽くします。吉野の桜の歴史は古く、平安時代の古今和歌集に詠われており、1000 年以上の昔から桜の名所として知られています。平安時代後期の西行法師が吉野を訪れ、吉野の桜を数多く和歌に詠んだことから、「花と言えば桜、桜と言えば吉野」と言われるようになり、以来、日本一の桜の名所として全国に知られています。全国にある桜の名所の主な品種がソメイヨシノであると思われますが、このソメイヨシノは私たちの吉野山にはごく僅かしかありません。江戸時代末期に、江戸の染井町に住む植木屋さんによってつくられたこの品種に、最初は「吉野桜」という名が付けられ、後に染井町で産まれた吉野の花のように美しい桜との言う意味で「染井吉野」と名付けられていることからも、吉野が全国でも屈指の桜の名所であることがお解りいただけるものと存じます。

このように、桜だけでなく様々な顔を持つ吉野ではありますが、桜の名所としてのイメージがあまりにも突出しているために、来訪してくれる観光客数が観桜期に集中しているのが実状であります。これからの本町の観光を考える上で、桜樹林を保全するとともになお一層の拡大

整備を図り、観桜期の観光客数の維持拡大と、観光の通年化を図ることが必須であります。幸いに本町には、修験道の根本道場たる国宝金峯山寺蔵王堂や仁王門をはじめ、吉野水分神社、吉水神社などの文化財指定を受けた神社仏閣が数多くあります。また、桜樹林は名勝に指定されており、多くの土地が史跡に指定されています。現在、吉野町ではこれらの文化的遺産を一つのものとして、ユネスコの世界遺産に登録していただくことを目指しています。さらに、吉野だけではなく、大峯山、熊野三山、高野山など紀伊山地に点在し、往古以来数多の人々から尊崇され続ける霊場と、それらを結ぶ大峯奥駈道や熊野古道といわれる参詣道を一括して「紀伊山地の霊場と参詣道」として、世界遺産登録を目指す事務が着々と進んでいます。吉野から大峯山山上ヶ岳や弥山などの山々が連なる大峰山脈の稜線伝いに熊野に至る大峯奥駈道は、山伏姿の修験者が現在でも行き交う修験道の道場として古と変わらぬ姿を今に留めています。一方、小辺路・中辺路と称される熊野古道も古の姿を色濃く残しています。これらのことが認められ、昨年 4 月にはユネスコの世界遺産暫定リストに登載されました。平成 16 年 6 月には、本登録されるものと確信しているところです。関係市町村が連携して、当地のすばらしさを世界にＰＲし、それを認められることは、取りも直さず観光の通年化を図る大きな一助にもなるものと期待しています。また、本町の桜とそれ以外の観光資源のみならず、他地域の観光資源とのネットワーク化を可能にして、この地域の活性化に大きく寄与するものとして期待しているところです。

これを契機に、低迷を続ける紀伊半島南部の山間地域がこぞって活性化に繋げたいと期待するこの運動に皆様のご理解とご支援を偏にお願いするものです。

以上でございます。

【篠田】 ありがとうございました。それではもう一つ、事例発表をいただきたいと思います。熊本県の水上村さん、よろしくお願いします。水上村さんは先ほどいろいろとお話を聞いておりましたが、昭和 59 年から桜の 1 万本の植樹を開始されたそうですが、それだけではダメではないかということで、新しい取り組みを平成 9 年度からやっていらっしゃるそうです。そこら辺につきましてお話を伺えれば幸いかと思います。よろしくお願いします。

【水上村　成尾村長】 ご紹介いただきました九州、火の国、熊本からやってまいりました。熊本といえば火の山ということで阿蘇が有名ですが、また、大河ドラマの来年のものが放映されるような予定になっておりますが、宮本武蔵ということで聞いております。その宮本武蔵が晩年を過ごしたのが熊本でもございます。

私の村は水上村。名前のとおり、川の最上流の地域でございまして、源流があるところです。その川の名前が球磨川。どこかで聞いたような感じがされる方もたいへん多いかと思いますが、実は最上川、富士川と並ぶ日本三大急流の一つです。そしてまたたいへんな暴れ川でもございます。40 年前に洪水調整、農業用水、発電のための多目的ダムが完成いたしました。このダムの周辺に 1 万本のソメイヨシノが中学生や一般のボランティアによって植栽されて、それを大事に今まで育ててきております。

そしてまた昭和 59 年ですが、約 20 年前、総理を務めました細川護熙氏が熊本の知事の時代に日本一づくりを提唱されました。村はその制度を最大限に利用し、環境整備を進め、この桜

を大事にし、日本一桜の里づくりに取り組んできたものでございます。その甲斐ありまして、九州一円に水上の名前を売り出すことになりました。

また、これだけではダメでございまして、根尾村と一緒で自然豊かなところです。人口は少ないし、山ばかりの村ですが、今の人口密度が 15 人です。しかし鹿密度、ニホンジカですが、37 頭ということで、人口よりも鹿の方が 3 倍多いという村です。

この自然をどうにかして利用して何かやろうということから、6 年前からツーリズム自然体験型観光、「水の上の学校」を開設して、その授業を開始しましたところ、県外からも年々参加する人が多くなってきております。また桜祭りにはそのツーリズムに入ってこられた方が再会する。そういう楽しみも出てきております。その「水の上の学校」につきまして、今日一緒に随行してきました企画観光課の岩崎から、そのツーリズムの一部をご紹介させていただきたいと思います。

【水上村　岩崎係長】　企画観光課の岩崎と申します。よろしくお願い申し上げます。今村長が申し上げましたとおり、「水の上の学校」ということで、水の上、球磨川の最上流、それから水上の水の上、それから川上から環境を守ろうというような発想のもとに「水の上の学校」というものを平成 9 年から始めました。今から写真が何点か出てきますので、簡単にご説明を申し上げます。

「水の上の学校」では年間 20 本程度のイベントを組んでおります。インストラクターはすべて村人で､現在インストラクターの数が 80 名ほどおります｡都会から広告を打ってお客さんを、お金をもらいながら集めまして、インストラクターの人たちがいろいろなことを教えながらイベントを企画して運営をしていくというようなものです。

水上村は、観光資源は桜以外にはほとんど自然くらいしかありませんので、ちょっと歩いていきますとタケノコが生えていました。これは何か使えるのではないかなということで、そこで出したのが「タケノコ山で春を味わう学校｣。これは 2 種類ございまして、モウソウチクとコサンチクです。今画面に出ているのはコサンチクというタケノコのイベントです。大人の方は 2000 円、お子さんは 500 円。タケノコを買っていただいて、昼食を食べて、竹細工等を村人から教わりながら一日を過ごしてもらうというイベントをやっております｡明日 5 月 19 日がこのイベントになっていまして、今のところ、86 名の方の参加をいただくようになっています。

「水の湧まれる里で遊ぶ学校」ということで、これは夏休みの親と子供をターゲットにしたイベントで、2 泊 3 日で行います。いろいろなメニューを組みながら親子で別々の体験をしてもらうということを参加者のほうに選択をしてもらいます。ここに出ているのはミニチュアハウスづくりということで、おうちを親子でつくってもらっています。これは 1 日かかります。釘打ちをできない人もたくさんいます。そういう方にも村の人たちが、こういうふうにつくるのだよということで教えます。これは大人の方は 2 万 3000 円ほどいただいてやっています。

これは子供向けで、「源流の森で暮らす学校｣。球磨川の源流の近くに非常に過疎化が激しいところがございます。今日来ております成尾村長の生まれたところでございますが、そこで 2 泊 3 日で子供を対象とした「源流の森で暮らす学校」というものをやっております。これも地元の人たちが全部インストラクターになって、こういう川で遊びをしたり、それから薪を割ってドラム缶ぶろでふろを沸かして入らせたり、器も自分たちでつくらせたり、球磨川の源流に行かせたりということで自然を体験してもらっています。

これは「ひがん花の里をてくてく歩く学校」といいまして、だいたいこの時期には私たちが募集をかけますと 160 名程度の方がお見えになります。彼岸花というのは田のあぜに咲きまし

て、農家にとっては非常に迷惑な花でした。これは非常にきれいだから何かに使えないかという話がありまして、ではこれでちょっとお客さんを呼んでお金をもらおうかという話もして、これは JR と提携しまして 5600 円程度でお一人様来ていただきまして、私どももちょっとかすめてお金をもらっています。彼岸花の里、これも集落全体の人たちにこのツアーのお世話をしていただいています。

これは「栗山で秋を味わう学校」。水上村には 230ha の栗山がございます。生産が非常に低迷しておりまして、価格も非常に低迷しています。農協あたりを通じて出すよりもお客さんを呼んで反対に拾わせて、それでお金を取ったほうが早いのではないかという思いのなかから、家族を呼んで 1 日、さっきのタケノコと一緒のやり方なのですが、栗を拾って昼食を食べて、ちょっといろいろなことをやりながらということでやっております。結構人気で、これもだいたい 80 名程度来ていただいています。

これは通年型ということで、「かずらや木や竹でいろいろつくる学校」。かずら細工、それから竹細工、木工品を通年 1 週間前の予約をいただきますとお好きなものを体験できますよということで、ここにはかずらと、ちょっと後ろのほうに出ていますが、ランプシェードというのがございます。これは非常に女性に人気で、年間を通じてだいたい 100 名程度参加をいただいております。

これが一番人気がある商品で、「森の暮らしを学ぶログハウスづくり」。うちにインストラクターの棟梁さんが一人いまして、まだ 45 歳なのですが、ログハウスをつくる学校を開催します。これは日本全国から来ていただきますが、受け入れの都合上、20 名で打ち切りです。4 泊 5 日 4 万円いただきまして、一部を体験してもらう。残りは地元の人たちとか、これは 3 期目をやっておりまして、1 期生、2 期生の人たちにずっと水上においでいただきながらつくり上げていくというシステムで、非常に人気商品でございます。これはちなみにつくり上げるのに 250 万程度でした。参加費を 80 万程度もらっていますので、170 万は村から出していますが、村の施設を 170 万でつくっているようなものです。

これが冬のイベントです。「源流の森のクリスマス」ということで、先ほど「源流の森で暮らす学校」というのがありましたが、同じ場所でクリスマスを野外でやります。これも非常にご家族に人気のある商品で、だいたい 50 名から 60 名程度。非常に寒いところで、日照時間も非常に短いような谷のなかで寒い思いをしながらクリスマスをするというイベントです。非常に人気もありまして、リピーターの方に何回も来ていただけるようなイベントになってきています。

以上ご覧いただきましたように、年間 20 本程度こういうイベントを地元の村人がインストラクターになって、いろいろなことを教えながらイベントをやります。ただ来ていただいて、さあ、どうぞどうぞ、お客さんは座っていて何もしなくてもいいですよというやり方ではなくて、お客さんも一緒にしてください。私たちも教えますよというやり方を、ずっとやりながら今まで続けてきておりますが、だいたい今のところ、通年して年間 2000 名ほどこのイベントで入ってきているような状況です。以上です。

【篠田】 ありがとうございました。

吉野町さんの場合は、たいへん豊かな歴史のある文化財、あるいは歴史そのものを活用するということで通年化を図ろうということでした。片や水上さんはそういうものはない。しかし自然だけはたいへんある。それをうまく活用しようということでした。今のご説明を聞いてみても、「商品」なんて言葉がぺろっと出てくるところなんかはさすがだなという思いを持ったわ

けです。

さて、あとはフリーディスカッションです。ただいまの発表についてご質問、ご意見、あるいはご提言等がございましたら、どなたからでも結構ですので、ご発表をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

最初はなかなか出ない。こういうものであります。では、とりあえず私からちょっと質問をさせてもらいます。吉野町さんのほうに伺いたいのですが、年間の観光客数は何名くらいでしょうか。それで今も桜の時期がたいへん多いとおっしゃったのですが、だいたい桜の時期でどのくらいなのかというのを教えてもらえますでしょうか。

【吉野町　松阪収入役】　だいたい 100 万人弱です。吉野山だけではなくてほかも入れて、吉野町内で。桜の時期でだいたい 30~40 万人くらいだろうと思います。今年は、時期的に早く咲いて早く散ったということで、若干お客さんが少ないかなという感じです。

【篠田】　熊野古道について、確かあれは和歌山県あたりが一生懸命 PR をしていらっしゃいますよね。そういうものの広域的な効果というのが吉野さんのほうにも及んで、例えば全体的に観光客が増えているということはあるのですか。

【吉野町　松阪収入役】　それは、先ほども言いましたように、いわゆる修験道の修行の道ということで、和歌山県、三重県、奈良県、3 県にそのルートがあって、それを世界遺産に登録をしていただこうということでございます。現在のところ、和歌山県さんの PR 効果は吉野まで及んではおりません。

【篠田】　どうでしょうか。むらおこしだとか、まちおこしだとかという場合に、いや、おれのところには何の資源もないのだということをよく聞くわけですが、今、水上さんの話を聞きますと、実はとんでもない。利用できる資源が転がっている。それをどう利用するかという点が肝心かなというように受け止めたわけです。どなたからも質問が出ないようですので、名指しでお願いしたいわけですが、群馬県の宮城村の村長さんいかがでしょうか。

【宮城村　櫻井村長】　櫻井でございます。どうぞよろしくお願いします。私の村でも自然、緑は多いのですが、私の村では 2 つの大きなテーマパークがあります。一つは赤城高原牧場クローネンベルクといいまして、ドイツの農村風景をイメージしたものです。もう一つは県営の群馬フラワーパークといいまして、これは四季を通じて広大な施設のなかで花が楽しめるという楽園であります。

そういう施設があるのですが、両方とも村にはお金が入ってまいりません。ただ、この県営のフラワーパークが 4 月 23 日開園 10 周年を迎えたものですから、花の日を制定いたしました。それに呼応して、うちのほうは花の村宣言を行いまして、村民と

行政が一体となって花の村をつくっていこうという計画を立てております。

本村にあります赤城南面千本桜は、樹齢約 50 年の「ソメイヨシノ桜」ですが、標高の少し高い所にあるものですから、テングス病等も多く発生しております。

このため、花の村宣言の一環として、隣接地に千本桜の後継樹となる桜の公園を、今計画しているところです。

ところがやはり今水上さんからお聞きしますと、ツーリズムというような何とかの学校という自然を大切にしているということを聞きまして、うちのほうでもぜひそういうことをやってみたいなと前々から思っていたところであり、少し欲張りなのですが、桜はやりたい、花はつくりたい。それから、今の教えていただいたような都市交流をぜひやってみたいという思いでおります。非常に参考になって、ありがとうございました。

【篠田】 ありがとうございました。確かに根尾村は先ほどの能郷の里、そういう非常に歴史が深い、いろいろなものをお持ちですが、この豊かな自然というものをやはり活かしていって、もっともっと先ほどの水上さんのようなやり方というのをやってみても面白いのではないかなという感じがするのですが、そこら辺、感想はいかがでしょう。

【根尾村　所村長】 今のいろいろな学校を考えると、自然を利用して人集めをする。これはなかなかいい、おもしろいアイデアかなと思うのです。私どものこの根尾村においては今はオートキャンプ場をつくったりとか、そういうある程度の施設をつくってやっているというのが多いわけですが、実際にこの自然そのものであまり金もかけないでやるということは、なかなかこれからの時代としてはいい方向ではないかなというように思って、いろいろ参考にしていきたいなと思って聞いておりました。

【篠田】 皆さん、どうでしょうか。水上さんは平成 9 年からおやりになっていて、かなりのノウハウをお持ちだろうと思うのです。今日はただでそのノウハウを教えていただけると思うのです。そこら辺についてせっかくの機会でございます。ご質問がありましたらどんどんお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【三好町　久野町長】 愛知県の三好町です。実はここへ参加させていただくのに樽見鉄道のなかで少しお話しさせていただいたのですが、根尾村の村長さんから 1 ヵ月ほど前にお電話いただいて、実は今年は開催するけれども、来年のところが決まってないそうだけれども、三好町どうだねという話をいただいたわけであります。

実は私自身が先ほどもお話をさせていただいたのですが、この立場になって 5 ヵ月なわけですから、過去の経緯というのがよく分からなかったのです。サミットはまだ参加させていただいて 3 年目くらいだと思うわけですが、実際にさくらサミットということで我が町が参加させていただいていいもの

だろうかどうかというくらいのつもりで今日来させていただいたのです。

私は両隣に高遠、吉野という日本でも屈指の桜で有名なところに囲まれて、さて三好町の桜といいましても、私どものところは豊田市と名古屋市に挟まれておりまして、32 平方 km の小さな町ですが、人口の急増地帯でありまして 4 万 9000 人くらいです。だいたい月に 100 人くらいの割で今でも増えています。新たに、小学校一つ、中学校一つをここ 5 年くらいに建設しなければいけないという状況のなか、東名高速道路が通っておりまして、開発インターチェンジという形で名古屋と豊田の間に 1993 年 3 月に開通しました。そういった意味で、トヨタの工場も四工場ありまして、いわゆるトヨタの企業城下町のような形のなかで発展してきたわけです。40 数年前は 9000 人という農村地帯であったのですが、40 数年の間に 5 倍以上に膨れ上がったというところです。

そんななかで農業用水として愛知用水が長野県の牧尾ダムから、当時は知多半島まで水を引くという大きな計画がされて、その途中に三好池という農業用の調整池をつくったわけです。そこの周囲に桜を植えたというのが初めでありますので、桜の花そのものはまだ 40 年くらいであります。一生懸命、桜というものを観光施設にしようという形のなかで植えたということではないわけですが、だいたい今までで 1 万 6000 本くらいは植えられてはいるのですが、いわゆる観光用という形のなかで今までは来ませんでした。

平成 6 年に愛知国体が行われました。池があるからということでカヌーの会場に指定され、そのカヌーの会場に指定された日本カヌー連盟の会長さんが桜内義雄さんでした。その桜内先生が衆議院議長当時に「さくらの会」の会長というご縁もあって、桜をどんどんまた植えるようにももちろんなりましたし、そして、このサミットもそちらのほうからのお誘いもあって入らせていただいたのではないかというふうに思っております。

そんななかで私もたいへん桜が好きでありますし、さくらサミットとはどのようなものかという好奇心もあって参加をさせていただいたのですが、残念ながら来年というわけにはまいりませんという話をさせていただきました。三好町は、実は農政課が担当しておりまして、農政課の職員と 2 人で来たわけでありますが、さて三好はさくらサミットにこれからも参加するのか、どうするのかなと車中で話をしてきたのです。やはりうちはさしあたっての観光はないわけでありますが、そのカヌーと桜という形のなかで今観光の目玉がないものですから、そういった意味で何とかならないかなという思いがいたしております。

それから先ほど水上のほうでお話をいただいた間伐材でうちをつくる。間伐材でうちをつくるのだけれども、200 数十万かかるけれども、来るお客さんからなにがしかいただいて、実際は 170 万くらいでできるというようなお話を伺って、私どものところにはそういう森林はないわけですが、三河材が近隣の町村から出ておりますので、例えばそんなものを利用しながらどんどん公共施設が必要な私どものところでありますので、おもしろいお話だなと思って聞かせていただきました。その辺のところをあとでお聞かせいただければありがたいと思うわけです。

今日は勉強させていただいて、またそちらのほうの人が来ていただけるようなものに果してなるかどうか分かりませんが、一生懸命がんばってまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【篠田】 ありがとうございました。今のご質問というか、お答えになるようなことがあれば。水上さん、ログハウスか何か、そういう点についての間伐材の利用について。

【水上村　岩崎係長】 ログハウスは間伐材、私有林あたりのものを出したり、買ったりする

こともあります。だいたい材料だけで 250 万のうち 60 万くらいが間伐材を使っておりまして、あとは人件費がいくらかかるかという話で、人件費を払っているのがここの棟梁一人分です。人件費が 40 万くらいですか。あとは私たち企画観光課の職員と、それとログハウスの 1 期生、2 期生の OB の方々に約半年間、土曜日と日曜日にお手伝いをしていただきながらつくり込んでいきます。だいたい 3 月くらいが完成式の運びになるということでやっておりますが、自分たちでつくった公共施設というのは非常に大切にすると思いますので、そういう意味合いからいっても住民参加型の公共施設のつくり方というのは非常に大切かと思います。

もう一つは小学校の建設が以前ありまして、その辺は村長のほうが詳しいと思いますので。

【水上村　成尾村長】　担当のほうが住民参加型の学校づくりについて話さなかったということで、今ありましたが、小学校を平成 11 年に完成させております。それをつくるのに、古い校舎をつくり替えるのにどのようにしたらいいかということで、学校の子供たち、先生、それから PTA、地域の区長さん方、全部集まりました。そしてどういう学校をつくろうかから始めました。1 年半かかりました。

いい学校をつくってくださいというのは全部の言う話ですが、どういう学校が一番いいのか。それを熊本大学の先生をなかに入れまして、やはりコーディネーターみたいにしてずっと会議を進めました。何十回となくその話を進めて小学校をつくり上げた経験を持っております。途中で、これはダメかな、これだけ何回も何回もやり直すのはダメかなというような感じまでしましたが、とうとうそれを我慢に我慢を重ねてつくり上げました。

音楽室一つつくるにしましても、やはり子供たちは森の音楽教室のほうがいい。森といいますと、やはり私たちは田舎のほうですので、木が生えているほうにそれでは音楽室をつくろうか。そして窓からすぐ木が見えるような場所にするとか。それから体育館でも後ろのステージを開ければ後ろの光景がパノラマみたいに出てくるとか、そういうものも全部話し合いました。

やはり 1 年半かけたかいがありまして、平成 11 年度の文部大臣賞はその校舎が日本一ということで受賞いたしました。そしてまたそれに対応しました PTA もやはり文部大臣の表彰を受けるように活発な PTA 活動ということで認められまして、全国表彰を受けた経験がございます。そういうことで、やはり地域住民参加型のいろいろな公共施設に取り組んでいきたいと今でも思っております。

またさっきのログハウスですが、あれは全部村のキャンプ場のキャンプ施設としてのログハウスで今利用されています。そしてつくった方は半分の値段で泊まれるようにして、自分たちで使うような形にもいたしております。いろいろそういうことに取り組んでまいりました。

【篠田】　ありがとうございました。先ほどの自然休暇型の観光について、住民の皆さんの協力がかなり大きなウェイトを占めていると感じたわけですが、それ以外に別の形でもって住民参加をやっていらっしゃる。そういう点では住民参加の歴史というのか、住民の意識というのは非常に高いというか、そういう感じを受けまして、なるほどな、ただ単に観光でこういうことをやろうとしても、それですぐできるものではなくて、そういう歴史というものを踏まえてできているのだなという感じを受けて、たいへん感心をいたしたわけでございます。

ほかにございませんでしょうか。

【角館町　黒坂参事】　秋田からまいりました黒坂と申します。私は、角館町で桜の世話などの実務を担当しています。今の桜のお話しから少し話題が逸れるかもしれませんが、観光用と

して植えたのではないということをおっしゃっていました。どこも多分普通はそうだと思うのです。それで桜がよくなればお客さんがたくさん来てくれるのではないかなと思います。従いまして、桜をよくすることが必然的にお客さんに来ていただく要件ではないかなと思います。

よく、腐枝が入った古い桜とかありまして、これはもうどうしようもないから切ってしまおうかという話もあるのですが､逆にこういった桜を活かして、こういう治療したらこういうふうになったんだよと見ていただくのも非常にいいのではないかなと思います。ここの根尾村さんの場合、淡墨桜という立派な桜がありますので、花の時期だけでなく、臣木を見ていただくこともすばらしいのではないかなと思っています。

それと、根尾村には国指定の文化財が、根尾の断層にしろ、たくさんありますので、そういったものをもっと PR したら通年観光に結びつくのではないかと思いました。文化財というのは観光的なものではなくて、文化財を守っていけば必ずお客さんが来ると思います。角館町には、実は伝統的建造物群として武家屋敷が残っていますが、あまり観光ということを意識しないで、文化財を守ればお客さんが来てくださるということで保存管理をやっています。

町には、年間 200 万くらいお客さんが来てくださるのですが、半分の 100 万人が桜のシーズンです。残りの 100 万は武家屋敷を見に来てくださるのですが、できればあまり観光を意識しないで、またリピーターの方に来ていただくような文化的な面を活用していきたいなと思います。

桜は､植えるときは皆さん大々的にセレモニーまでやってたくさん植えてくださるのですが、植えたあとは意外と手をかけないというのがありますので、桜を植えるときよりも、そのあと枯枝を切ったり、肥料をやったりと手をかけることが大切ではないかなと私は思います。本数を多くするよりいかに全部に手をかけるかではないかと思います。

それから植えるとき、苗木のときは寂しいものですからたくさん植えてくださるのですが、そのまま生長しますとお互いに競い合って上のほうにばかり伸びて、枝の張らない桜になってしまいます。桜を植栽するときは 100 平方 m に 1 本とか、最低限 10m 離すとか、そうしておいたほうが将来的に枝が張ってよくなるのではないかと思います。樹木というのは必ず大きくなりますので、そのあとのことも考えて植えていただけたらと、最近はそういうことを考え、実行しています。

【篠田】　ありがとうございました。今の黒坂さんは役場の職員でありますが、樹木医の資格を持っていらっしゃいます。朝日新聞の全国版が取り上げるとか、先ほどお話を聞きましたら NHK の BS ハイビジョンで 6 月 15 日午後 9 時から放送をされるそうですが、黒坂さんも出演されるということのようであります。今の発言は体験に基づくことで、本から得た知識ではないということでございます。

さくらをめぐる観光と交通

【篠田】　次に事例発表の 2 のほうに移りたいと思います。「さくらをめぐる観光と交通」とい

うことでございますが、要は桜の開花時期にものすごく渋滞をきたしてしまう。これに何とかうまい策はないのでしょうかという、これは本当にかなりいろいろなところで共通した悩みとして出ているわけですが、この点につきましてもやはり先輩のところからいろいろなお知恵が学べるのではなかろうかと思うわけです。

最初に第 2 回のサミットを開催されました高遠町さんのほうからお伺いしたいわけです。話に出ると思いますが、駐車場確保のために学校の協力まで得ているということを聞いております。どうぞよろしくお願いします。

【高遠町　伊藤助役】　ご紹介をいただきました、岐阜県とはお隣の県になりますが、長野県からまいりました高遠町の助役の伊藤でございます。高遠は鎌倉時代に豪族が居を構えて、そこから発展をして城下町としてその後続いてきたわけですが、本格的な今のような城郭は武田信玄がつくったと言われております。

その後、明治になりまして、廃藩置県によりましてお城が取り壊されることになったわけですが、その城跡が、お城のあとが荒れていくのを悲しんだその時代の人々が桜を、違う場所から持ってきてその城跡に植えたのが始まりでありました。現在は、全国的にも知れわたる桜の名所ということにつながってまいりました。

タカトオコヒガンザクラという名前がつけられておりますが、たいへん赤みの強い、ちょっと小ぶりでありますが、びっしり花がつくということで、たいへん美しい桜だということでおほめをいただいているわけです。4 月のはじめから 5 月の連休まで、約 1 ヵ月に渡りましてさくらまつりということでお祭りを展開しているわけですが、期間中は実は公園を有料にしておりまして、入園料をいただいております。おもに関東地区、あるいは中京、関西方面の皆さんを中心にいたしまして､有料でお入りいただく方がだいたい期間中 40 万人ほどいらっしゃいますが、特にそれが 10 日くらいの間に集中いたしますので、多い日には有料の入園者だけでも 5 万人を超える日がございます。

バスのほうは 4～5 時間くらいに集中してまいりまして、1 日に 600 台くらいのバスが入り込んできますし、乗用車のほうもだいたい終日合わせますと、1 日に多いときには 7500～8000 台くらいの車が入ってくるわけです。

高遠町は大きく分けまして 2 つの進入ルートがございます。以前は職員が総動員で交通誘導いたしましたが、2 つのルートともひどいときには 10km くらい渋滞してしまいまして、通常 20～30 分で通過できるところが 2～3 時間かかってしまう。そして高遠からはちょうど東京のほうにも、それから名古屋のほうにも 2～3 時間で行けるわけですが、その 10km の間に 2～3 時間を要してしまうということでした。

ツアーのお客様はしょうがないものですから 2～3km 手前からバスを降りまして公園に向かって歩かれます。そのあとをバスが追っかけまして、ちょうどお客様が公園に着いてお花見をして、そろそろお弁当も食べて帰るというような時間帯にようやく空バスのほうが駐車場のほうにたどり着くという状況でありました。予定のほうも大幅に狂ってしまいますし、なかには時間がなくなってしまって、途中で U ターンされる車も多かったわけです。たいへん高遠の桜

はいいけれども渋滞にはこりごりだということで、高遠へは二度と行きたくないというようなお話も聞かれておりました。

これではいけないということで、渋滞の解消に向けて対策をやってきたわけですが、ここ 2～3 年でようやくある程度の成果が現れてまいりました。だいぶ渋滞のほうも解消されるようになりました。ハードの対策としましては、やはり城下町ということもありましたが、1 車線の道路が多かったものですから、大型バスになりますと相互通行ができない箇所が多くございまして、そういったところにつきましては国道のバイパスの改良をお願いいたしまして、だいぶ進んでまいりました。

ただ城跡はちょっと高台にありまして、その高台に上がっていく道については国の史跡に指定をされておりますので大幅な改良ができず、そちらのほうはかまうわけにはいかないということで別のルートから公園の高台に登る道路をつくりました。これもちょっと城下町にはそぐわないのですが、ぐるっと回るループ橋というか、輪を描いて高低差を解消するような橋をかけまして、そんな工夫もしながら上にも上がれるような形にいたしました。

また、国道とは別のルートを開けることができました。それは川沿いに走ってくる道路なのですが、そこの川沿いの河川敷に大型 150 台、普通車のほうが 500 台というような駐車スペースを確保しました。あるいは先ほどお話ししたループ橋の下にも大型で 100 台くらいの駐車場のスペースを確保いたしました。

そんなことでだいぶ駐車場のほうは確保が進んでいるわけですが、ソフト対策としては今、篠田先生のお話にありましたが、実は町内あらゆる校庭ですとか、町営のグラウンドですとか、広場という広場を臨時駐車場という形で、使えるところは全部使おうということで駐車場の確保をしております。

駐車場の整理につきましては商工会ですとか、地元の自治会、それから建設業の組合の皆さん、あるいは小中学校、高等学校の PTA や生徒さんにお願いをいたしまして、委託をして駐車場の整理にあたっていただいております。学校への委託料ということで、だいたい 1 校 100 万円くらいのお礼といいますか、委託料ですが、支払っております。

先ほども、根尾村の中学生の皆さんにたいへん心の温まる歓待をしていただきましたが、私どもの中学の子供たちも休日にはおみやげを売るようなことも兼ねながら、お客様を学校内に解放しているトイレへのご案内ですとか、トイレの清掃ですとか、あるいは声かけ運動といいまして、ようこそいらっしゃいました、気をつけてお帰りください、また来年もお越しくださいねというような声をかけているということで、お客様から毎年お花見が過ぎますと、桜もよかったけれども子供さんたちのあいさつがとても印象に残りましたというようなお礼の手紙をいただいております。

それから先ほど言いましたような城址公園の周辺道路は改良ができませんので、一方通行を施しております。あるいは時間規制によりまして進入禁止などの交通規制をやりまして、遠いところの臨時の駐車場、先ほど言いましたような駐車場のほうへの誘導を行っております。これらの誘導につきましては警備会社のほうに委託をしております。

それから、城址公園から離れた駐車場は、だいたい先ほどの河原と 3km くらい離れているところにありますが、そちらからはシャトルバスの借り上げをしまして、シャトルバスでの運行を 2 ルート、それから町内のバスターミナルから循環バスの 1 ルートをバス会社のほうに委託して運行しております。

先ほど根尾村さんでたいへんうらやましいなと思いましたのは、私どもの町には鉄道が入っていないのです。それでどうしても来るのはバスか車、自家用車しかないものですから、そう

いう意味であの鉄道がうまく活用できるのだろうなとうらやましく思ったわけです。遠く離れたところでも、例えば大垣市みたいなところに駐車場を村でお借りして、そういったお客様に鉄道に乗ってきていただくというようなことも考えられたらいいのかなと思いましたし、私どもでやっているような、お客様にはちょっと負担をかけますが、入園料をいただきながらそういった経費にあてていくということであれば解決するのではないかなと思います。

それから道路の渋滞情報につきましては、長野県内で民放ラジオが何社かあるのですが、そんなラジオを通じまして桜の情報とともに流しておりますし、先ほどもちょっと出ましたが、交通規制図とか、駐車場の案内図につきましては事前に旅行業者さんのほうにポスターとともにお送りしております。またインターの料金所のところにもそういった案内図を置いてご協力をいただいているところです。

今後の課題として、まだまだ増え続けております車の対策として、新しい駐車場をどこかに確保しなければならないという問題、あるいは国道の未改良部分の整備を進めていかなければならないというような問題もありますが、そんなことを進めながら、やはり町民全体でお客様をお迎えする、来年もぜひお越しくださいと言えるようなお迎えができるように取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

【篠田】 たいへん詳細にご報告をいただきまして、ありがとうございました。

もう一つ、上越市さんにお願いしたいのです。上越市さんも第 9 回のさくらサミットを開催されているわけです。上越市さんの場合は、この冊子によりますと駅から 1.5km くらいのところが高田公園のようです。歩いて 20 分ということです。楽しく歩いていただくのにどのような工夫がなされているのでしょうか。そこら辺を含めてご報告をお願いしたいと思います。

【上越市　東條部長】 ご紹介をいただきました新潟県の上越市でございます。私どもも同じような悩みを抱えておりまして、今、高遠さんのほうからもいろいろ説明がありましたように、教えていただきたいというのが本音でございます。

私どもの市街地にございます高田公園が約 50ha ございます。この 50ha に約 4000 本の桜が植わっております。それでレジュメのほうにも記載させていただきましたように、この高田公園を中心にして民家、それから道路、空き地、学校等を含めまして 1 万本の桜を植えましょうということで、この近辺、周辺の町内会を含めまして 1 万本の桜の取り組みを行い、平成 12 年度に 1 万本の桜を完了させました。

私どもの場合、高遠さんとちょっと違うのは高速自動車道が 2 本ございます。北陸自動車道と上信越自動車道です。さらに信越線の高田駅、南高田駅と駅も 2 つございます。私どもの場合、北陸自動車道を利用されての富山方面、北陸の方面からのお客様と、私ども県内の新潟方面から来るお客様、それから長野を中心としたお客様に色分けをされて、そのお客様が

この図にございますように、上越インターと、図面の左下の上越高田インターを降りて観桜会会場へ集中するという形になっています。

これは高速を利用される方でございまして、降りる方向がこの国道 18 号です。上越インターから来る場合はバイパスを利用されて、鴨島の高架橋からこの公園に向かう。それから高田インターを降りた方は、南高田という駅を通りまして来られるという形になっております。

先ほどもいろいろ話がありましたように、ウィークデーと申しますか、土日以外は平均の車としましては 3000 台程度、多くても 4000 台程度です。ただ土日になりますと、多い日には普通乗用車が 9000 台程度になるというところがネックになっております。大型につきましてはだいたい 40～50 台程度なのです。今年の場合は特にちょっと桜が早く咲いてしまったということで少なかったのですが、だいたい土日になりますと 20 万人、多いときは 30 万人のお客様が訪れ、国道 18 号線と、市内が渋滞をしてくるのが現実でございます。

それで何をしたかといいますと、高遠さんがおっしゃったとおり、会場周辺の公共施設は全部借り上げ開放するという取り組みました。普通の日には 1120 台のキャパを確保し、土日は 1670 台ということで、それだけの台数を維持しております。

特に大きいのが、ここの国道 18 号の関川右岸 500 台ですが、これも建設省のご協力を得まして河川敷を開放していただいて確保する。それから、その下に看護大学と中央病院がございます。ここに 170 台の駐車ができますので、これも日曜日は開放していただくという取り組みを行っております。

普通の日には専門の誘導員等によって誘導いたしますが、土日には私ども市の職員も動員を行いまして、期間中約 4 日間の土日がございますので、だいたい延べ 500 人の職員が張りつきまして誘導、並びに PR 等を含め対応しております。

次に、駅からのお客様につきましては、シャトルバスを期間中運行いたします。10 時から夜の 7 時まで 30 分間隔で 2 台の車を順次動かして、交通渋滞を解消するためにもこのシャトルバスをご利用いただいて、公園のなかに誘導しております。

先ほど話が出ましたように、一番のネックは、この公園のソフトボール球場には、実は 700 台止められるのですが、雨が降ると止められなくなるのです。グラウンドがぐちゃぐちゃになり、最悪鉄板をひかなければならない。この鉄板をひく作業はたいへんなことで、お金がかかります。実は期間中になるべく雨が降らないように祈りを込めてこのソフトボール球場を使っている次第です。ここの 700 台分をどうするか、私どもはいつも爆弾を抱えて運営をしているのが現実です。

それで、今後の対応としてこの 700 台分を何とかうまく収められないかということで、商店街の利用を考えています。皆さんご存じのように、商店街というのは空洞化が進んでおります。この期間中、高田公園においては確かにお客様があふれかえっているのですが、商店街に行きますと、少し寂しい状況です。この商店街の活性化も含めまして、来年以降、私どもは今年 1 年をかけてこの本町商店街の約 300 台分の駐車場を商店街の活性化を含めて、無料開放なり考慮しながら、商店街の皆様と十分に話し合いをして、ここをまず利用していこうという考えでございます。

これにつきましてはせっかくの場所ですし、ただ、この辺のルート、誘導のしかた等、こういった問題に対しては非常に慎重を期しますので、十分時間をかけたいと思います。そういう爆弾を抱えている運営のなかで、そういったほかのところを含めての対策をしていかなければならないだろうと思っております。そういうことで、私どもも爆弾を抱えながら、いろいろな形で模索をし、運営をしております。

それから、先ほど高遠さんからお話がありましたように、私も今日は電車に乗ってきたなかで、各駅に「さくらサミット歓迎」という横断幕が飾られてありました。そういう意味では、おもてなしという体制を第三セクターを中心にしておとりになっているようです。

実は、私どもも第三セクターの会社がございます。これは越後湯沢から私どもの直江津駅まで約 1 時間で運行しているほくほく線（北越急行株式会社）がございます。これは日本で唯一黒字の第三セクターです。今、この第三セクターは、私どものお花見会場へ列車を運行していただいております。普段は直江津までの運行ですが、直江津から高田までという区間はこのお花見期間に限り、高田駅へお花見客を運ぶ列車運行をしていただいております。そういうようなことも含めて、列車も十分活用できると思いますので、その辺もお考えいただきながら、私どもも皆さんといろいろ協議をして教えていただくなかで、よりよいものにしていきたいと思っております。以上でございます。

【篠田】　たいへん具体的にお話しいただきまして、ありがとうございました。

今お二方から説明を受けたのですが、根尾の村長さん、先輩の皆さんの知恵がいろいろあるのではないかと思うのです。率直にご質問等があると思いますが、どうぞ。

【根尾村　所村長】　聞きたいことがございまして待っておりました。高遠町のほうは公園を有料化しているというお話ですね。これはどのようにしてやっておられるのかということがちょっと聞きたいのと、入場料はいくらくらいでやって、ということは車の駐車はただということになるのではないかというふうに思いますが、その辺をちょっとお聞かせいただきたいと思います。

【高遠町　伊藤助役】　実は高遠町は都市公園条例という条例をつくりまして、その条例に基づきまして入園料をいただくという方法をとっております。公園全体を都市公園という位置づけにしておりまして、入園料をいただいております。

それから入園料ですが、実は今年また値上げをいたしまして、大人の方はお一人 500 円いただいております。それから団体になりますと 400 円。それから子供さんですが、小中学生につきましてはお一人 250 円、団体のお客様が 200 円、団体は一応 30 名以上をそういった扱いにさせていただいております。

それから、随時駐車場の料金はいただかないわけですが、ただ公園を上がっていったところに民間の駐車場がありますので、そちらは駐車料をいただいております。

【篠田】　どうぞ。

【根尾村　所村長】　もう少しいいですか。

相当これは入場料が入るというように感じますし、それから公園そのものは囲ってあるのですか。

【高遠町　伊藤助役】　今年もだいたいこんな金額になるのかなというので、1 億 3000 万くらいの入園料になります。ただこれも期間中、シャトルバスの運行に使ったりですとか、それからごみの処理料ですとか、トイレの仮設の料金を払うとか。あるいはなるべく見る時間を長くすれば渋滞も解消できるのかなということになりまして、夜間ライトアップをしているのです

が、そういったライトアップの機材の借料もこのなかからあてたりしております。それとやはり若干工事もありますので、工事代金を払ったり、あるいはそのための借金をするわけですが、借金払いの財源に使ったりでちょうどトントンになるような計算にはしております。
　それから公園のほうは柵をゆって、簡単には入れないようになっております。

【篠田】　よろしいですか。すごいですね。1 億 3000 万と聞いて驚いちゃったんですが、今のこの期間中だけ柵をして。

【高遠町　伊藤助役】　期間中だけというわけにはいかないので、柵は通年してありますが、期間を外れますと簡単に出入りできるようになっております。

【篠田】　皆さん方、ほかのところでもこの開花期間中の渋滞問題というのは共通の悩みだと思いますが、さらにご質問等はございませんでしょうか。せっかくの機会ですが。角館さんのところだってえらい渋滞するんじゃないですか。

【角館町　黒坂参事】　そうですね。一気にたくさんの車が来ますので非常に渋滞します。私どものほうは、花の下で一番いいところが駐車場になっていますので、皆中心部に集まってくるというのが実は欠点なのです。吉野町さんのほうでシャトルバスを最初に運行したと記憶をしているのですが、そういった方法が渋滞を避けるいい方法ではないかと思っております。
　私どもも非常に苦労しています。役場の職員が出て交通整理していたのですが、役場の職員ですとどうも渋滞のイライラのとばっちりが来るものですから、最近はガードマンを雇って、町の職員はもっぱら観光案内に活躍しているところです。一番先にシャトルバスをやられました吉野町さんのほう、いかがでしょうか。ちょっと教えてもらいたいのですが。

【吉野町　松阪収入役】　吉野町の場合は何年か前から始めております。吉野へは近鉄電車もあるのですが、バスが通る国道が 1 本入っているだけです。吉野の麓には、貯木場いわゆる材木市場の土場がございまして、そこをお借りして駐車場としてシャトルバスを運行しております。土曜日曜、去年でしたら 4 日間、今年は 2 日間お借りして実施しました。ご存じの通り、今年は開花が早かったために、例年よりお客様が随分少なくなりました。たいへんな赤字になりましたが、奈良交通に委託をして実施しました。吉野山には、ある程度の駐車場はございますが、とても来られる車のすべては入れないということで、奈良交通に委託をして、利用料金 1000 円をいただいて吉野山へ輸送しています。一般の観光バスについては、吉野山上まで全部進入させて、乗用車はできるだけ進入させないという方法で、今年も含めてやってきたということでございます。

【篠田】　よろしいですか。今のことについて追加して質問したいのですが、それは、それなりに結構守られているのでしょうか。例えば、私はやはりマイカーで行くんだという人が中にはいるんだろうと思うのですが。

【吉野町　松阪収入役】　はい。そういう方は当然いると思いますが、吉野山にある民間の駐車場の許容範囲だけは車を入れます。その後、当然国道で止めるといったらおかしいけれども、ガードマンをつけてシャトルバスを利用するように案内をさせてもらっているわけです。

【篠田】　分かりました。根尾の村長さん。先ほど高遠さんのほうから例えば大垣に駐車場を設けて、そこでバスに乗り換えてというご提案がせっかくあったのですが、いかがですか。

【根尾村　所村長】　これはちょっと私も全く考えていなかった話ですが、今年実は隣の本巣町の織部駅というのが今年初めて樽見鉄道にできまして、そこにバスを止めてそこから乗ってくるというのを結構やってもらったと聞いておりますが、大垣に駐車場を借りてという話で、今朝大垣駅に行ってグッと北のほうを見ておりましたら、駐車場が線路の北側にたくさんありましたので、そこなら借りられるのかなというような発想もちょっと今よぎったのです。

なかなかおもしろい発想で、そうすれば樽見鉄道がもうかるので､私のところも車で全部来てもらったのでは樽見鉄道はもうかりませんので、できるだけ樽見鉄道に乗ってもらいたい。そして赤字にならない路線にしたいと思っておりますので、そういう方法ができて観光客が呼べれば、これはありがたい方法かなとちょっと思ったのです。ありがとうございました。

【篠田】　ありがとうございます。ほかに、何かこういうアイデアを使ったらどうだろうというような、なかなか気がつかないけれども閃いたという方がいらっしゃいましたらご披露願いたいのですが、いらっしゃいませんでしょうか。どうぞ。

【水上村　成尾村長】　アイデアではないのですが、私のところもどうしようもないくらい車が来て、警察のほうもあとからそのまま置いておけというくらいで帰ってしまうような状態なのです。シャトルバスといいますか、送迎用のバスも準備したことがございます。なかなか乗らないで目的地まで車でどんどん詰まってしまうまで行くというような状態なのです。そのシャトルバスを運行するために何かいい方法、乗ってくださいという方法をどこかの町村でやっておられれば、アイデアを教えていただければと思っております。

【篠田】　これはどうしますか。まず吉野町さん、今、私がさっき質問したこととつながる話なのですが。

【吉野町　松阪収入役】　吉野の場合でしたら、先ほど言いましたように進入路も駐車場も少ないですから、当然、道路は混雑してまいります。特に土曜と日曜に車が多いわけです。乗用車については、当然朝のうちは、何百台かは進入できると思います。あとはもう道中が込み合ってきますので、そのときは先ほど言いましたように、誘導してシャトルバスに乗っていただくという方法を行っております。

【篠田】　それは上が込んでいてどうしようもありませんよという情報をマイカーの皆さんに的確に流してあげるということが一つ味噌なのですね。それと、やはりそういう規制ではない

かもしれないけれども、誘導をするということがたいへん重要だということですね。

【吉野町　松阪収入役】　そうです。当然警察にもお願いしていますし、ガードマンも入れています。それからバスについては町の職員もある程度出て案内はしていますが、道中については一応ガードマンにお願いして、その場所に行くように誘導をしています。

【篠田】　高遠さん、いかがですか。

【高遠町　伊藤助役】　同じだと思います。警察に入っていただきまして事前に交通対策会議というのをやるのですが、そのなかでも交通規制を警察のほうからかけていただく。これは時間規制なのですが、その時間帯にはもうそちらのほうに誘導させないということでご協力をいただいていますし、今もお話がありましたように、逆に城址公園の高台に登っていこうとすると余計に時間がかかってしまいますので、お客様のほうもそのあたりは分かってきてくださっていると思います。

【篠田】　水上さん、どうも警察のご協力というのがたいへん威力があるようですが、今のお話でよろしいでしょうか。そのほかございませんでしょうか。
　私もさっき高遠さんのアイデアを聞いていて、なるほどなと。とかく自分の自治体のなかだけでものを考えるというふうになりがちなのですが、そうではないところに駐車場をつくって、それをうまく活用してやるという広域的な発想というのはたいへん面白いなと、本当にすばらしいアイデアだなと思いました。

【根尾村　所村長】　吉野町さんとか、高遠町さんのシャトルバスで人を運ぶというお話を聞きましたが、お土産を売っている店とか、そういうのはどういう形でやっておられるか。それで送ってしまって土産の店がダメになるとか、そういうことはないでしょうか。

【吉野町　松阪収入役】　それはないです。というのは、吉野町の場合は吉野山の蔵王堂とか、土産物屋さんが集中している所を歩行者天国にしていますので、そこを通って桜を見てもらいます。その両端の近くからシャトルバスが発着していますから、お客様は必ずまちのなかを通っていただきますので、そういうことはないと思います。

【篠田】　お願いします。

【高遠町　伊藤助役】　やはりお土産屋さんからは苦情が出ます。ただこちらでもお話ししているのは、お客様の通るルートが変わってしまったものですから、そちらの新しいルートのほうに、あるいはシャトルバスの乗降場のほうにお土産屋さんを出されたらいかがですかというようなお話をすることもあります。

【篠田】　どうぞ。

【根尾村　所村長】　私のほうも今年初めてシャトルバスをやろうということで予算化して始めたのですが、最初お客さんが満開になったけれど少なかったのです。今年は準備ができない

うちにさくらが咲いたためですが。しかし、シャトルバスで運んだということについて、土産を売る店から一斉に苦情が来まして、あそこは何を考えているというようなことでおしかりを受けて 1 日でやめてしまったという失敗をしたのです。そういった経緯から、例えば樽見鉄道を降りて歩くうちに土産を買ってもらうというようなコースになっているところで、シャトルバスでこちらへ送ったものですからしかられたというようなことなのです。

【篠田】　先ほど、シーズンになる前に関係者で対策会議を開催しているということで、事前にいろいろと悩みを訴えて共通にしてそれを解決するということでしたが、関係者が集まった対策会議というのは非常に有効だろうと思うのです。根尾さんの場合には今のシャトルバスをやる場合にそこら辺はどうだったのですか。

【根尾村　所村長】　最初、皆さんに説明するときは老人や身体障害者とか、そういう人を乗せて送りたいと言っていたところが、最初のうちにこの電車で来た人の数が少なかったので、ほとんどの人がバスに乗って行ってしまったということで、ほとんど店の前を通る人がいなかった。初日にそういう状態がおきましたので失敗したというようなことなのです。事前に説明している段階では老人とか身体障害者ならいいだろうということである程度理解をしてもらったのですが、バス会社のほうは空いている以上は乗せないわけにはいかないということで、身体障害者の手帳を見るとか、そんなことではないので、結局全部乗れたということに問題があったようです。

さくらを活用した人材育成

【篠田】　このパート 2 の部分でたいへん話が盛り上がってきているわけですが、まだちょっと時間ございますので、事例発表の 1 のほうについてもう少し自分が言いたい点があったという方がございましたら、そちらの点でもよろしゅうございますので、どなたか。では幸手の市長さんお願いします。

【幸手市　増田市長】　幸手の増田です。まず「まちづくり」、それと 2 番目の「観光・交通」。ちょっとまとめて話をしたいと思うのです。我が幸手市というのは埼玉県の北東部で、何もないところなのです。今、吉野町さんとか、いろいろ皆すごいなと思うのです。先ほどもポスターを見ていますとお城があったり、神社があっていいなと思うのですが、幸手は何もないのです。でもそういうなかで私はやはり桜が好きだ。それからもう一つ、自分の生まれ育ったまちを有名にしたいな。そのためには桜を通してやるのがいいなと思ったのです。

　そして桜に注目したときに、幸手市というのは何もなくて、幸手の端のほうに一昨年さくらサミットで皆

さんにも来ていただいたのですが、今使ってない土手というのがあるのです。土手に昭和 24 年に桜を 1000 本くらい植えた。そうして気がついたときに、それは私ではないですが、私の前の人が、周りは田んぼと畑しかない。そこに菜の花を植えたのです。そうしましたら桜と菜の花がとてもコントラストがいいということでどんどんお客が来るようになったのです。私はそのとき、観光事業というのは皆が協力して創意と工夫をすればどういうところでも人を呼べるのだなということが分かったことがとてもうれしかったわけです。

そういうなかで、今、交通の問題が出てきました。交通の問題が出てきたときに、ちょっと乱暴な言い方なのですが、私ははじめ皆さんの交通渋滞を聞いたときにうらやましく思った。ですから幸手が PR 活動とかをどんどんやっていって、ラジオとかで、今幸手の権現堂堤周辺は交通渋滞ですと言われたときは、やったぞ（笑)。本当です。そこまで来たんだと思ったのです。それと同時に、やはり個々の事情はあると思うのですが、幸手の場合はできるだけ電車で来てもらう。これはやはり一番です。そうじゃない場合には不便を感じても、乱暴な言い方ですが、若干仕方ないかなという思いがあります。

それから、さくらサミットについてちょっと話をしたいのですが、今、三好町さんだと思うのですが、私は平成 6 年に初めてさくらサミットに来ました。そのときに思ったのです。絶対これは幸手でやってやるぞ。その理由というのは、市長ですから言うわけではないですが、この全国の桜自慢の方々を呼ぶその準備は、必ずや自分の市の職員の教育に絶対いいなと思いました。

それと同時に市民の方々が、おれたちの桜はすごいのだと言っていながら全国レベルだって思ってないのです。そして、さくらサミットを呼ぶことによって、おれたちのまちの桜って結構全国レベルなんだな。これも我がまちの自慢を一つ持つことはとてもいいなと私は思いました。ですから、さくらサミットというのは、私は絶対にやったほうがいいと思っていましたし、やったあともやはりよかったなと思っています。以上です。

【篠田】　ありがとうございました。実は、幸手さんがさくらサミットをおやりになるときにインターネット上ですばらしいホームページができたのです。地元の高等学校の生徒の皆さんの手づくりのホームページができまして、確かリアルタイムの写真かなんかも載っていました。そういう点ではそういう刺激を与えることによって生徒まで元気づくという点で、いろいろないい副作用が出たのではないかなと私も記憶をしております。

そのほかございますか。どうぞ。

【富岡町　渡辺助役】　福島の富岡です。今までのお話を聞いておりまして、各町村とも桜にまつわる歴史とか、故事来歴の豊富な町村が多いのです。我が町は今、幸手さんのように何にもない、歴史的文化的な資源のない町でございまして、これを通年観光にどのように結びつけるのか。これが一番難しい。どこの町村もそうだと思いますが、桜の命は 1 週間か 2 週間程度ですから、それを通年観光に結びつけるのにはどのようなものがいいのかということでいろいろ検討してまいりました。

それで桜を植えて増やすのはもちろんですが、我が町では桜にまつわる思い出の手紙。福井県の丸岡町さんを勉強してきまして、桜にまつわる思い出の手紙、桜文大賞を実施いたしました。今回 4 回目の募集をして、4 月にそれらの表彰式をやったわけです。郵政省の後援を取り付けまして、審査員としては中央で活躍しております音楽家の小室等先生、それから評論家の佐高信先生、民族評論家の杉浦日向子先生、エッセイストの吉永みち子先生。この 4 人の先生

方に審査員をお願いして毎年大賞の発表をしております。

年間を通じてそれがどうなのかということになりますが、やはり募集をして応募されるのは結構長い期間、だいたい 1 年間くらいかけて応募されるわけです。それを第 1 次審査、第 2 次審査、最終審査というようにやっていくわけですが、今年はだいたい 3500 ほどの、海外も含めてそれくらいの応募がありました。そういうことで、年間を通じて桜にまつわる観光になるかどうかは分かりませんが、そのようなことで一つやっていきたいなと思っております。

それから去年からですが、我が町にはそんなに歴史のある桜ではないのですが、2000 本ほどのヨシノザクラの桜並木があります。その桜並木を交通止めにして歩行者天国にした。去年から今全国で流行しているよさこいを桜よさこいと銘打って、県内各市町村に呼びかけまして実施いたしました。今年は 40 団体、1300 名ほどのよさこいの踊り子が来まして、この歩行者天国でそれらを一日かけて踊る。これも結構人気があります。

しかし年間を通じてなかなかそれをやることもできないので、まず年間を通じて観光にどのように結びつけるのかということで、今、基本構想を練っているわけです。春の桜はもちろんですが、夏に咲く桜、冬、秋、年間を通じて咲くような桜はないものかというようなばかげたような話を現在検討しております。

吉野町さんとか、あるいは高遠さん、上越さん。いろいろ観光資源が豊富なのですね。うらやましく思っております。それで交通についてもこの期間を通じて 1 日 9000 台とか、5000 台とかという交通を整理する。これはうらやましいなと思っておりますが、我が町でもできるだけ交通の整理に苦労するくらいの桜にしたいなと感じております。

【篠田】 ありがとうございました。それではせっかく会場にご熱心に残っていただいている方もいらっしゃいます。せっかくの機会ですから、ご質問だとか、ご意見等がございましたら挙手をしていただければと思います。どなたかいらっしゃいますでしょうか。どうぞ。マイクを持っていきますので、よろしくお願いします。

【会場 A】 コーディネーターの篠田先生のほうから聞いていただきたいと思いますが、観光客がたくさんお見えになりますとごみの問題もあろうかと私は思うわけです。そうした点につきまして各自治体の関係者の皆様方はどのようなふうにやっておいでになるか。また、マナー教育等が必要なのではないのか。その辺につきまして、簡単でよろしいが、お願いをしたいと思います。以上でございます。

【篠田】 それでは時間も限られておりますので、全市町村というわけにはいきませんので、やはり代表的なたくさん来られるところがよろしいかと思いますので、まず高遠町さん、ごみの問題。

【高遠町　伊藤助役】 先ほどもちょっとお話ししたのですが、民間のごみの業者さんに委託をしております。これがだいたい 2000 万円ほど処理料でかかります。あとはお客様にもお持ち帰りをお願いする放送は流しているのですが、やはりダメですので、そういった形でお願いをしております。

【篠田】 なにせ 1 億 3000 万ありますので、ちょっとその辺が他のところではまねのできない話かと思います。それではこれは角館さんも同様の悩みがあるでしょうが。

【角館町　黒坂参事】　はい、そのとおりでございます。やはりお客さんが来てくださればくださるほど、ごみとトイレといわゆる交通問題です。私どもは、駐車場収入をそちらのごみ処理や仮設トイレ、交通整理にあてています。これらの費用でほとんど駐車場収入は消えてしまいます。ちなみに高遠さんは 1 億 3000 万円も集めるので、桜の管理費にはどの程度回しているのか、そこだけちょっとお伺いしたいと思います。

【篠田】　では、その質問にも答えてください。

【高遠町　伊藤助役】　角館さんのまねをしたわけではないのですが、桜守さんという方を通年お願いしたりしておりまして、そういった給料。あるいは公園の開園期間には臨時の方を募集しまして、ワークシェアリングではないのですが、そういった雇用対策にも費用を用いております。そちらでだいたい 1500 万くらいです。工事金と先ほどいいました起債の償還金を抜かすと、ほとんどが管理料になっております。

【篠田】　それではもうお一方にお聞きします。北郷さんは、ごみの問題なんかはございませんでしょうか。

【北郷町　後藤収入役】　北郷町です。私のところの場合は山間ということでございまして、いろいろと趣向を凝らしているのですが、現時点におきましてはお客の数がまだまだ少ないということで、そのあたりのほうのことの勉強をさせていただきながら、現時点では民間のほうに委託をいたしております。

【篠田】　はい、どうぞ。

【幸手市　増田市長】　幸手は毎年 50 万人くらい来るのですが、お持ち帰り。

【篠田】　徹底して。

【幸手市　増田市長】　徹底して。ただ市側は徹底している。

【篠田】　というふうなお答えでございました。あとどなたかいらっしゃいますか。もうお一方くらい。いらっしゃらなければ時間がもうまいってきておりますので、とりあえず事例発表の 1 と 2 を終えさせていただきまして、サミットの総括をさせていただきます。

サミット総括～非日常から異日常へ～

【篠田】　先ほど富岡町さんの話もありましたが、なかなか桜だけの通年観光は難しいという、まさにそういうことで熊本県の水上さんはお知恵を絞られてグリーン・ツーリズムをおやりになっているのではないかと思います。

一昨年ですか、平成 12 年 12 月 1 日に実は国土交通省に観光政策審議会というのがあるのですが、そこで答申が出ておりまして、「21 世紀初頭における観光振興方策」というたいへん分

厚い答申が出ているのです。それを読むと、従来のような観光、つまり、大量の人がドッと来て、単に「見る」という観光は、だんだんなくなってきているのではないかということで、言葉として「新しいツーリズム」「新しい観光」という言葉をなんべんも使ってこれからの方向を示しております。

観光といいますと、非日常の世界に浸りたいということで、日常に非ざるところに行って見てみるというような言い方をよくするのですが、最近ある本を読んでいまして、いや、これからの観光というのは単にそれだけではなくて、異日常、異なる日常に浸るといいますか、そういう時代になるのではないか。言うなれば、「見る」観光から「浸る」観光。堺屋太一さんあたりは「時間消費型」の観光と言っていますが、観光地、観光に行った先の住民の皆さんと交流をかわす。少なくとも都会の生活では味わえない異なった日常生活をそこで味わう。そういう異日常の観光というのがこれからの観光なのではないかということを言っている方がいます。この国土交通省の観光政策審議会の答申もだいたいそういうトーンで貫かれておりまして、「もう一つの観光」、あるいは「新しい観光」の一つの例として出されているのがグリーン・ツーリズムでございます。

そういう点では水上さんがたいへんな努力をされていて、先ほどの説明を聞きましても、おそらく住民の皆さん方のご協力が得られれば、かなり、財産としてお金をいただけるものに変わっていくのではないか。ただお金、お金だけではいけませんので、やはり住民の皆さん方との接触を楽しんでいただくというのがねらいなんだろうと思うわけです。

そういう点でこれからの方向としては異日常の観光というものを頭に置いてやっていく時代であるとするならば、歴史的な資源がないのだということであきらめるのではなくて、むしろいいチャンスがこれから到来するのではないかなという捉え方が私はできるのではないかと思っております。そういう点で今回いろいろなお話が展開されたわけですが、なにがしかのヒントを得ていただきまして、次のまちづくりに活かしていただければたいへん幸いかなと思っているわけであります。

実は昨年、日立さんで行われた際に一つの提言のようなものがまとめられました。IT 時代であるわけですから、その IT を駆使していろいろなデータというものを共有化するということで、ネットワークを図っていこうではないかという提案がありました。

例えば、このさくらサミットのホームページが出版社のぎょうせいさんのほうでつくられておりますが、今日の冊子には加盟自治体のホームページの URL が載っているなど、お互いのホームページのなかにキラッと光るものを載せていただいて、それを情報の共有化として役立てていくということもたいへんいいのではないかなと思うのです。年に 1 回のこのサミットの時期だけではなくて、他の時期もサミットをやっているような、言うなればサミットの通年化ということを我々は考えていきたいものだなという思いを持っているわけです。

一応以上のようなまとめにもならないことを申し上げましたが、そういうことで本日のサミットは終えさせてもらいたいと思います。皆さん方、貴重なご意見を積極的にご披露いただき

まして、たいへんありがとうございました。

■共同宣言

第 14 回さくらサミットは、全国から 16 の自治体が一堂に会し、「桜（はな）拓く 21 世紀・ふれあいとやさしさの郷 NEO」ここ岐阜県根尾村で開催されました。

私たち、日本の文化や精神の創造に大きなかかわりを持つ「さくら」をまちのシンボルとし、「さくら」によるまちづくりを推進している自治体は、地域にとっての「さくら」の存在を再認識し、現状の課題や問題点を語り合いながら、未来に向けて「さくら」を活かしたまちづくりを討議するためにここに集いました。

「さくらと歩む地域の未来」のテーマのもと、一つは「さくら」を核とした観光の通年化と、他の観光資源とのネットワーク強化、そして、開花時期における観光流通対策について主に討議したところです。

二つの課題解決には、一時期に集中する桜の観光資源としての特性を平均化し、周辺の観光環境をネットワークするという共通の取り組みが必要となります。

今後は、担当者によるプロジェクト会議も併催しながら、具体的に課題解決の方策を探り、地方分権・市町村合併など新たな自治体の役割が問われる中、私たちの財産である「さくら」を守り、有効に活用していくことをここに宣言いたします。

平成 14 年 5 月 18 日

北海道静内町	秋田県角館町	福島県富岡町	茨城県日立市
群馬県宮城村	埼玉県幸手市	東 京 都 北 区	新潟県上越市
長野県高遠町	愛知県三好町	奈良県吉野町	島根県木次町
長崎県大村市	熊本県水上村	宮崎県北郷町	岐阜県根尾村

第 14 回さくらサミット in NEO
開催地代表
岐阜県根尾村　村長　　所　和徳

■次期開催地あいさつ

水上村村長　成尾政紀

次期開催地といたしまして立候補いたしました熊本県水上村でございます。

先の会議のときにお話ししましたように、球磨川の最上流の地域、そしてお酒といえば焼酎しか出ない地域でございます。人口は 2700 人。根尾村とあまり変わらない地域です。

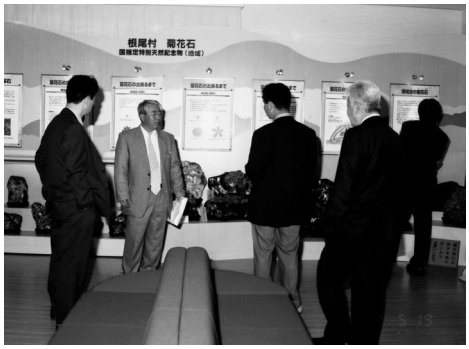
精一杯がんばりたいと思いますが、あと 2 年あるわけですので精一杯手入れをして、皆さんがおいでになるのを心からお待ちしております。がんばりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■体験会・視察

陶芸工房にて陶板に名前を書き込んでいるみなさん

パン工房にて試食中

地震断層観察館にて



郷土資料館「菊花石」前にて

淡墨桜を視察

淡墨桜を見上げるみなさん

■記念植樹

うすずみ温泉にて

■記念植樹に参加した根尾小学生の感想

さくらサミットでは、宮崎県北郷町の人といっしょに植樹をしました。
初めは少しきんちょうしました。でもだんだんなれてきました。
北郷町の人に名前をきかれたりして、すこしとまどってしまったけど、しっかり言えました。
ぼくは、このさくらサミットに参加してよかったです。

根尾小学校　６年　松葉 昴太

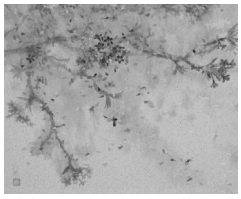
■第１回淡墨桜絵画コンクール受賞者

【大賞】

栃木県大田原市　**佐藤　孝義**

【優秀賞】

養老郡養老町　**山本　真一**



【優秀賞】

新潟県長岡市　**浦上　義昭**

【根尾村長賞】

安八郡墨俣町　**宮ノ脇 鉦一**

【根尾村議会議長賞】

恵那郡福岡町　**志津　築**

【特別賞　岐阜県知事賞】

岐阜市　**木田 記久子**

【審査員特別賞】

羽島市　**田中　晃**

■第 6 回さくらサミット大賞 押し花絵コンクール受賞者

【根尾村長賞】

岐阜市　**正木 八四子**

【根尾村議会議長賞】

吉城郡古川町　**山本　史子**

【根尾郵便局長賞】

東京都北区　**山根 登志江**

【根尾村教育長賞】

恵那郡福岡町　**長瀬　悦子**

【財団法人 日本手芸普及協会賞】

茨城県日立市　**伊達　幸子**

【ふしぎな花倶楽部賞】

千葉県浦安市　**佐藤　光子**

【うすずみ温泉賞】

武儀郡武芸川町　**桜井　京子**

第 14 回さくらサミット in NEO
～さくらと歩む地域の未来～
報告書

発行日：平成 14 月 7 月 31 日
発行：岐阜県根尾村
〒501-1524
岐阜県根尾村板所 625-1
tel:（058138）2511
fax:（058138）2202
e-mail:info@neomura.jp